

(1) 普通会計の状況（市町村）

歳入の状況（単位 千円・％）					地方税の状況（単位 千円・％）				
区分	決算額	構成比	経常一般財源等	構成比	区分	収入済額	構成比	超過課税分	
地方税	675,404,325	38.8	618,766,580	75.2	普通税	591,313,046	87.5	19,211,954	
地方譲与税	6,120,840	0.4	6,120,840	0.7	法定普通税	591,313,046	87.5	19,211,954	
利子割交付金	934,168	0.1	934,168	0.1	市町村民税	281,624,622	41.7	19,211,954	
配当割交付金	2,654,841	0.2	2,654,841	0.3	個人均等割	4,341,547	0.6	-	
株式等譲渡所得割交付金	2,697,942	0.2	2,697,942	0.3	所得割	146,177,406	21.6	-	
分離課税所得割交付金	385,144	0.0	385,144	0.0	法人均等割	18,797,931	2.8	-	
道府県民税所得割臨時交付金	46,801,545	2.7	46,801,545	5.7	法人税割	112,307,738	16.6	19,211,954	
地方消費税交付金	60,460,501	3.5	60,460,501	7.3	固定資産税	277,965,430	41.2	-	
ゴルフ場利用税交付金	-	-	-	-	うち純固定資産税	277,654,650	41.1	-	
特別地方消費税交付金	-	-	-	-	軽自動車税	1,713,083	0.3	-	
自動車取得税交付金	3,079,229	0.2	3,079,229	0.4	市町村たばこ税	30,009,911	4.4	-	
軽油引取税交付金	11,784,162	0.7	11,784,162	1.4	鉱産税	-	-	-	
地方特例交付金	2,242,163	0.1	2,242,163	0.3	特別土地保有税	-	-	-	
地方交付税	52,769,721	3.0	52,019,079	6.3	法定外普通税	-	-	-	
普通交付税	52,019,079	3.0	52,019,079	6.3	目的税	84,091,279	12.5	-	
特別交付税	750,549	0.0	-	-	法定目的税	84,091,279	12.5	-	
震災復興特別交付税	93	0.0	-	-	入湯税	-	-	-	
（一般財源計）	865,334,581	49.7	807,946,194	98.2	事業所税	27,453,534	4.1	-	
交通安全対策特別交付金	828,586	0.0	828,586	0.1	都市計画税	56,637,745	8.4	-	
分担金・負担金	7,573,917	0.4	-	-	水利地益税等	-	-	-	
使用料	59,538,335	3.4	10,208,720	1.2	法定外目的税	-	-	-	
手数料	7,742,239	0.4	-	-	旧法による税	-	-	-	
国庫支出金	403,886,978	23.2	-	-	合計	675,404,325	100.0	19,211,954	
国有提供交付金（特別区財調交付金）	-	-	-	-					
都道府県支出金	69,879,604	4.0	-	-					
財産収入	25,408,358	1.5	3,588,736	0.4					
寄附金	855,098	0.0	-	-					
繰入金	35,780,440	2.1	-	-					
繰越金	1,990,584	0.1	-	-					
諸収入	146,025,924	8.4	463,811	0.1					
地方債	117,972,500	6.8	-	-					
うち減収補填債（特例分）	-	-	-	-					
うち臨時財政対策債	74,600,000	4.3	-	-					
歳入合計	1,742,817,144	100.0	823,036,047	100.0					

地方税の状況（単位 千円・％）				
区分	平成29年度	平成28年度		
徴収率 (%) 現・計 年	合計	99.4 98.2	99.4	97.9
	市町村民税	99.1 97.0	99.0	96.5
	純固定資産税	99.7 99.1	99.6	98.8

公営事業等への繰出		国民健康保険事業会計の状況	
合計	167,030,102	実質収支	1,618,150
下水道	30,282,716	再差引収支	-13,091,261
宅地造成	11,555,648	加入世帯数（世帯）	432,424
交通	4,627,557	被保険者数（人）	645,128
市場	3,440,948	被保険者 1人当り	保険税（料）収入額
国民健康保険	41,866,135		87
その他	75,257,098		国庫支出金 133
			保険給付費 313

歳出の状況（単位 千円・％）				
目的別歳出の状況（単位 千円・％）				
区分	決算額（A）	構成比	(A)のうち普通建設事業費	(A)のうち充当一般財源等
議会費	2,348,530	0.1	-	2,347,725
総務費	86,550,432	5.0	2,835,496	72,188,107
民生費	738,875,383	42.4	12,384,005	305,678,556
衛生費	80,476,219	4.6	1,335,119	59,292,709
労働費	271,296	0.0	-	216,091
農林水産業費	92,785	0.0	-	20,291
商工費	88,227,055	5.1	29,618	7,910,488
土木費	191,122,390	11.0	75,295,361	87,127,636
消防費	37,398,404	2.1	3,045,731	35,533,150
教育費	247,074,233	14.2	20,831,182	191,397,547
災害復旧費	-	-	-	-
公債費	263,749,003	15.2	-	231,694,192
諸支出金	4,627,557	0.3	-	4,547,557
前年度繰上充用金	-	-	-	-
歳出合計	1,740,813,287	100.0	115,756,512	997,954,049

性質別歳出の状況（単位 千円・％）					
区分	決算額	構成比	充当一般財源等	経常経費充当一般財源等	経常収支比率
義務的経費計	1,116,390,718	64.1	647,602,483	647,489,231	72.1
人件費	300,873,562	17.3	253,389,293	253,276,184	28.2
うち職員給	218,464,913	12.5	184,000,144	-	-
扶助費	552,537,563	31.7	163,288,408	163,288,408	18.2
公債費	262,979,593	15.1	230,924,782	230,924,639	25.7
元利償還金	262,979,172	15.1	230,924,361	230,924,218	25.7
うち元金	234,058,463	13.4	202,047,397	202,047,254	22.5
うち利子	28,920,709	1.7	28,876,964	28,876,964	3.2
一時借入金利子	421	0.0	421	421	0.0
その他の経費	508,666,057	29.2	312,739,865	234,957,034	26.2
物件費	111,768,760	6.4	71,872,375	69,775,799	7.8
維持補修費	16,384,296	0.9	12,239,191	12,239,076	1.4
補助費等	115,483,776	6.6	96,530,910	75,597,541	8.4
うち一部事務組合負担金	7,616,250	0.4	2,700,029	2,476,491	0.3
繰出金	129,366,304	7.4	106,294,625	77,344,618	8.6
積立金	45,726,154	2.6	21,001,078	-	-
投資・出資金・貸付金	89,936,767	5.2	4,801,686	-	-
前年度繰上充用金	-	-	-	-	-
投資的経費計	115,756,512	6.6	37,611,701	-	-
うち人件費	2,113,538	0.1	1,981,337	-	-
普通建設事業費	115,756,512	6.6	37,611,701	-	-
うち補助	71,070,390	4.1	11,928,900	-	-
うち単独	41,661,382	2.4	25,375,061	-	-
災害復旧事業費	-	-	-	-	-
失業対策事業費	-	-	-	-	-
歳出合計	1,740,813,287	100.0	997,954,049	-	-

(注釈)
普通建設事業費の補助事業費には受託事業費のうちの補助事業費を含み、
単独事業費には同級他団体施行事業負担金及び受託事業費のうちの単独事業費を含む。

（注釈）
普通建設事業費の補助事業費には受託事業費のうちの補助事業費を含み、
単独事業費には同級他団体施行事業負担金及び受託事業費のうちの単独事業費を含む。

(2) 各会計、関係団体の財政状況及び健全化判断比率（市町村）

一般会計等の財政状況(単位:百万円)

会計名	歳入	歳出	形式収支	実質収支	他会計等 からの 繰入金	地方債 現在高	備考
1 一般会計	1,751,687	1,750,324	1,362	420	114,933	3,328,407	
2 母子父子寡婦福祉貸付資金会計	853	224	628	-	8	2,468	
3 心身障害者扶養共済事業会計	497	497	0	-	92	-	
4 公債費会計	1,304,683	1,304,683	0	-	1,013,018	-	
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
16							
計 一般会計等(純計)	2,641,518	2,639,527	1,991	420		3,330,875	

※一般会計等(純計)は、各会計の相互間の繰入・繰出等の重複を控除したものであり、各会計の合計と一致しない場合がある。

公営企業会計等の財政状況(単位:百万円)

会計名	総収益 (歳入)	総費用 (歳出)	純損益 (形式収支)	資金剰余額 /不足額 (実質収支)	他会計等 からの 繰入金	企業債 (地方債) 現在高	左のうち 一般会計等 繰入見込額	資金不足 比率	備考
1 駐車場事業会計	2,766	2,725	41	41	-	287	-	0.0	
2 国民健康保険事業会計	357,139	355,521	1,618	1,618	41,866	-	-	0.0	
3 介護保険事業会計	254,225	253,470	755	755	37,686	-	-	0.0	
4 後期高齢者医療事業会計	30,996	29,616	1,380	1,380	7,757	-	-	0.0	
5 自動車運送事業会計	53,991	21,428	32,563	167	12,188	-	-	0.0	法適用企業
6 高速鉄道事業会計	176,542	173,598	2,943	1,806	3,910	-	-	0.0	法適用企業
7 水道事業会計	64,854	49,786	15,067	38,486	482	147,884	296	0.0	法適用企業
8 工業用水道事業会計	1,638	1,299	339	6,689	2	685	1	0.0	法適用企業
9 中央卸売市場事業会計	7,387	7,353	34	5,274	2,401	59,202	13,025	0.0	法適用企業
10 下水道事業会計	82,917	78,749	4,168	32,858	30,283	463,902	295,041	0.0	法適用企業
11 港営事業会計	23,335	15,412	7,923	-	1	134,857	-	0.0	法適用企業
12 食肉市場事業会計	1,802	1,802	0	-	1,040	350	270	0.0	法非適用企業
13									
14									
15									
16									
17									
18									
19									
20									
21									
22									
23									
24									
25									
26									
27									
28									
29									
30									
31									
32									
33									
34									
35									
計 公営企業会計等				89,075		807,167	308,633		連結実質赤字額

関係する一部事務組合等の財政状況(単位:百万円)

一部事務組合等名	総収益 (歳入)	総費用 (歳出)	純損益 (形式収支)	資金剰余額 /不足額 (実質収支)	他会計等 からの 繰入金	企業債 (地方債) 現在高	左のうち 一般会計等 負担見込額	備考
1 関西広域連合	2,135	2,074	61	61	-	131	-	
2 大阪府後期高齢者医療広域連合(一般会計)	197	168	29	29	-	-	-	
3 大阪府後期高齢者医療広域連合(後期高齢者医療特別会計)	1,132,716	1,106,468	26,248	26,248	8,638	-	-	
4 淀川左岸水防事務組合	275	272	3	3	99	-	-	
5 淀川右岸水防事務組合	121	119	2	2	-	-	-	
6 大和川右岸水防事務組合	93	90	3	3	-	-	-	
7 大阪市・八尾市・松原市環境施設組合	12,567	12,567	0	0	8,474	16,250	9,344	
8								
9								
10								
11								
12								
13								
14								
15								
16								
17								
18								
19								
20								
計 一部事務組合等				26,346		16,381	9,344	

公債費負担の状況

実質公債費比率 (千円・%)				
区分	平成27年度	平成28年度	平成29年度	分母比
元利償還金	100,288,953	98,498,384	91,415,604	12.4
減債基金積立不足算定額	-	-	-	-
準元利償還金	-	-	-	-
満期一括償還地方債に係る年度割当額	92,740,096	90,640,766	90,868,971	12.4
公営企業債の元利償還金口に対する繰入金	46,687,644	29,493,278	28,678,213	3.9
組合等が起こした地方債の元利償還金に対する負担金等	2,368,891	1,401,206	1,420,872	0.2
債務負担行為に基づく支出額(公債費に準ずるもの)	6,536,004	9,624,499	9,503,636	1.3
一時借入金の利子	-	-	-	-
合計 (A)	248,621,588	235,058,113	221,887,296	
内訳	平成27年度	平成28年度	平成29年度	分母比
PFI事業に係るもの	-	-	-	-
いわゆる五省協定等に係るもの	8,923	8,923	8,923	0.0
国営土地改良事業・森林総合研究所等が行う事業に係るもの	157,081	154,020	150,959	0.0
地方公務員等共済組合に係るもの	-	-	-	-
社会福祉法人の施設建設費に係るもの	-	-	-	-
損失補償・債務保証の履行に係るもの	-	-	-	-
引き受けた債務の履行に係るもの	-	-	-	-
その他上記に準ずるもの	6,370,000	9,461,556	9,343,754	1.3
利子補給に係るもの	-	-	-	-
特定財源の額 (B)	75,114,185	84,720,346	83,571,507	
標準財政規模 (C)	766,606,226	763,699,353	848,686,770	
算入公債費等の額 (D)	117,787,281	116,655,374	114,023,488	
(C)-(D)	648,818,945	647,043,979	734,663,282	
実質公債費比率 (単年度)	8.6	5.2	3.2	
((A)-((B)+(D))) / ((C)-(D)) × 100 (3ヵ年平均)	9.2	7.9	5.7	

将来負担の状況

将来負担比率（千円・％）												
区分		平成27年度	平成28年度	平成29年度	分母比	内訳	平成27年度	平成28年度	平成29年度	分母比		
将来負担額	一般会計等に係る地方債の現在高	2,924,642,978	2,943,610,004	3,330,874,890	453.4	PFI事業に係るもの	-	-	-	-		
	債務負担行為に基づく支出予定額	125,184,567	17,429,884	109,016,097	14.8	いわゆる五省協定等に係るもの	13,585,315	13,576,554	13,567,778	1.8		
	公営企業債等繰入見込額	464,316,195	343,539,848	308,632,598	42.0	国営土地改良事業に係るもの	-	-	-	-		
	組合等負担等見込額	11,918,844	10,536,700	9,343,791	1.3	森林総合研究所等が行う事業に係るもの	570,164	427,623	285,082	0.0		
	退職手当負担見込額	175,462,795	173,475,353	238,982,073	32.5	地方公務員等共済組合に係るもの	-	-	-	-		
	設立法人等の負債額等負担見込額	35,031,702	33,145,675	31,651,697	4.3	依頼土地の買入れに係るもの	-	-	-	-		
	うち、健全化法施行規則附則第三条に係る負担見込額	-	-	-	-	社会福祉法人の施設建設費に係るもの	-	-	-	-		
	連結実質赤字額	-	-	-	-	損失補償・債務保証の履行に係るもの	-	-	-	-		
	組合等連結実質赤字額負担見込額	-	-	-	-	引き受けた債務の履行に係るもの	-	-	-	-		
	その他上記に準ずるもの	-	-	-	-		-	-	-	-		
合計	(E)	3,736,557,081	3,621,737,464	4,028,501,146			111,029,088	103,425,707	95,163,237	13.0		
充当可能財源等	充当可能基金	753,842,896	789,994,251	1,357,767,748	184.8	企業債等繰入見込額	下水道事業会計	288,361,491	291,950,048	295,041,435	40.2	
	充当可能特定蔵入	809,546,744	823,323,786	802,848,032	109.3		中央卸売市場事業会計	21,212,083	13,490,219	13,024,502	1.8	
	基準財政需要額算入見込額	1,413,022,484	1,391,907,171	1,388,561,177	189.0		水道事業会計	357,492	330,230	295,767	0.0	
	合計	(F)	2,976,412,124	3,005,225,208	3,549,176,957			食肉市場事業会計	347,015	305,264	270,210	0.0
	将来負担比率((E)-(F))/(C)-(D)×100	117.1	95.2	65.2			その他の会計	154,038,114	37,464,087	684	0.0	
						公社・三セク等	地方道路公社に係る将来負担額	-	-	-	-	
							土地開発公社に係る将来負担額	-	-	-	-	
							地方独立行政法人に係る将来負担額	-	-	-	-	
							その他第三セクター等に係る将来負担額	35,031,702	33,145,675	31,651,697	4.3	
健全化判断比率		平成29年度	早期健全化基準	財政再生基準								
実質赤字比率		-	11.25	20.00								
連結実質赤字比率		-	16.25	30.00								
実質公債費比率		5.7	25.0	35.0								
将来負担比率		65.2	400.0									

地方公社・第三セクター等の経営状況及び地方公共団体の財政的支援の状況(単位:百万円)

地方公社・第三セクター等名		経常損益	純資産又は 正味財産	当該団体 からの 出資金	当該団体 からの 補助金	当該団体 からの 貸付金	当該団体からの 債務保証に 係る債務残高	当該団体からの 損失補償に 係る債務残高	一般会計等 負担見込額	備考
1	(公財)大阪国際交流センター	▲ 33	698	200	41	-	-	-	-	
2	(公財)大阪市都市型産業振興センター	7	1,048	25	321	-	-	-	-	
3	(公財)大阪市博物館協会	67	1,264	30	-	-	-	-	-	
4	(公財)大阪科学振興協会	212	3,468	250	-	-	-	-	-	
5	(株)大阪市開発公社	60	10,718	302	-	-	-	-	-	
6	○アジア太平洋トレードセンター(株)	1,233	▲ 13,479	11,500	10	15,621	-	19,674	19,674	
7	大阪市商業振興企画(株)	15	94	330	-	-	-	-	-	
8	○(公大)大阪市立大学	740	87,391	102,311	13,879	3,847	-	-	-	
9	(株)大阪城ホール	627	7,194	4,505	-	-	-	-	-	
10	(公財)大阪市救急医療事業団	0	5	5	-	-	-	-	-	
11	○(地独)大阪市民病院機構	313	3,961	100	8,184	9,544	-	-	-	
12	○(地独)大阪健康安全基盤研究所	198	433	217	740	-	-	-	-	
13	○大阪市街地開発(株)	235	3,625	342	-	3,601	-	3,649	365	
14	大阪市住宅供給公社	95	5,384	40	205	32,261	-	-	-	
15	(株)大阪水道総合サービス	116	505	211	-	-	-	-	-	
16	(一財)都市技術センター	▲ 64	977	20	-	-	-	-	-	
17	○クリスタ長堀(株)	349	▲ 10,677	2,300	6	7,128	-	7,374	7,374	
18	クリアウオーターOSAKA(株)	190	338	200	-	-	-	-	-	
19	大阪地下街(株)	858	8,333	40	71	-	-	-	-	
20	大阪シティバス(株)	435	1,017	3	-	-	-	-	-	
21	(株)大阪メトロサービス	64	1,633	50	99	-	-	-	-	
22	大阪市高速電気軌道(株)	▲ 41	134	175	-	-	-	-	-	
23	○大阪港埠頭(株)	66	31,821	30,568	-	5,251	-	668	67	
24	阪神国際港湾(株)	807	3,748	450	-	5,488	-	-	-	
25	(株)大阪港トランスポートシステム	779	11,852	4,174	-	-	-	-	-	
26	大阪港埠頭ターミナル(株)	114	2,326	246	-	-	-	-	-	
27	大阪港木材倉庫(株)	79	2,237	10	-	-	-	-	-	
28	○(株)湊町開発センター	367	4,565	26,890	385	6,001	-	4,073	4,073	
29	中之島高速鉄道(株)	▲ 177	24,080	8,712	-	-	-	-	-	
30	西大阪高速鉄道(株)	▲ 216	14,627	5,933	-	-	-	-	-	
31	(株)大阪鶴見フラワーセンター	80	1,987	459	-	-	-	-	-	
32	(公財)大阪府暴力追放推進センター	▲ 15	2,602	800	-	-	-	-	-	
33	(一財)アジア・太平洋人権情報センター	▲ 38	573	250	-	-	-	-	-	
34	大阪外環状鉄道(株)	▲ 638	13,000	6,470	561	18,315	-	-	-	
35	(公財)大阪国際平和センター	▲ 1	2,183	100	65	-	-	-	-	
36	(株)ドーチャ	42	1,015	8	-	-	-	-	-	
37	(公財)関西・大阪二十一世紀協会	▲ 7	20,405	167	1	-	-	-	-	
38	○大阪信用保証協会	7,830	160,064	4,353	281	-	-	69,556	99	
39	○(地独)大阪産業技術研究所	126	14,466	4,853	1,131	-	-	-	-	
40	(公財)大阪親光局	70	513	50	320	-	-	-	-	
41										
42										
43										
44										
45										
46										
47										
48										
49										
50										
51										
52										
53										
54										
55										
56										
57										
58										
59										
60										
61										
62										
63										
64										
65										
66										
67										
68										
69										
70										
71										
72										
73										
74										
75										
76										
77										
78										
79										
80										
81										
82										
計 地方公社・第三セクター等				217,649	25,566	107,057	-	104,994	31,652	

※地方公共団体が①25%以上出資している法人又は②財政支援を行っている法人を記載している。

※地方公共団体財政健全化法に基づき将来負担比率の算定対象となっている法人については、○印を付与している。

(3)市町村財政比較分析表(普通会計決算)

人	口	2,702,432	人(H30.1.1現在)	実	質	赤	字	比	率	-	%			
うち	日本人	2,570,850	人(H30.1.1現在)	連	結	実	赤	字	比	-	%			
面積	積	225.21	km ²	実	質	公	債	費	比	5.7	%			
歳入	総額	1,742,817,144	千円	将	来	負	担	比	率	65.2	%			
歳出	総額	1,740,813,287	千円	市	町	村	類	型	H25	政令市	H26	政令市	H27	政令市
実質	収支	419,812	千円	(	年	度	毎	)	H28	政令市	H29	政令市		
標準	財政規模	848,686,770	千円											
地方債	現在高	2,069,776,835	千円											

※市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。

※平成30年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率及び将来負担比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

※充当可能財源等が将来負担額を上回っている団体については、将来負担比率のグラフを表記しない。

※「人件費・物件費等の状況」の決算額は、人件費、物件費及び維持補修費の合計である。ただし、人件費には事業費支弁人件費を含み、退職金は含まない。

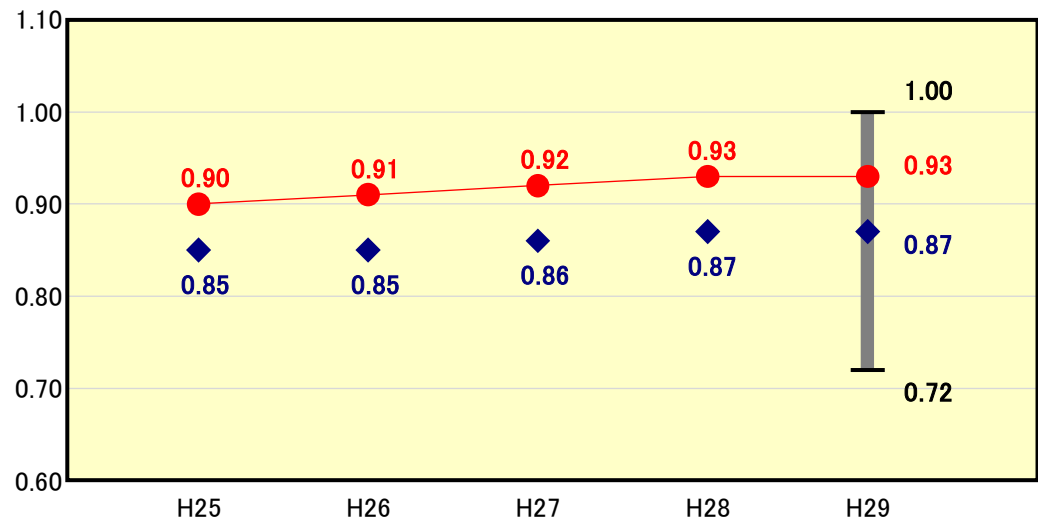
※「定員管理の状況」及び「給与水準(国との比較)」は地方公務員給与実態調査に基づくものであるが、当該資料作成時点(平成31年1月末時点)において平成30年調査結果が未公表であるため、平成29年度の数値については、前年度の数値を引用している。

※人口については、各調査年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。

※類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、平成29年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。

財政力

財政力指数 [0.93]



類似団体内順位 6/20 全国平均 0.51 大阪府平均 0.73

財政力指数の分析欄

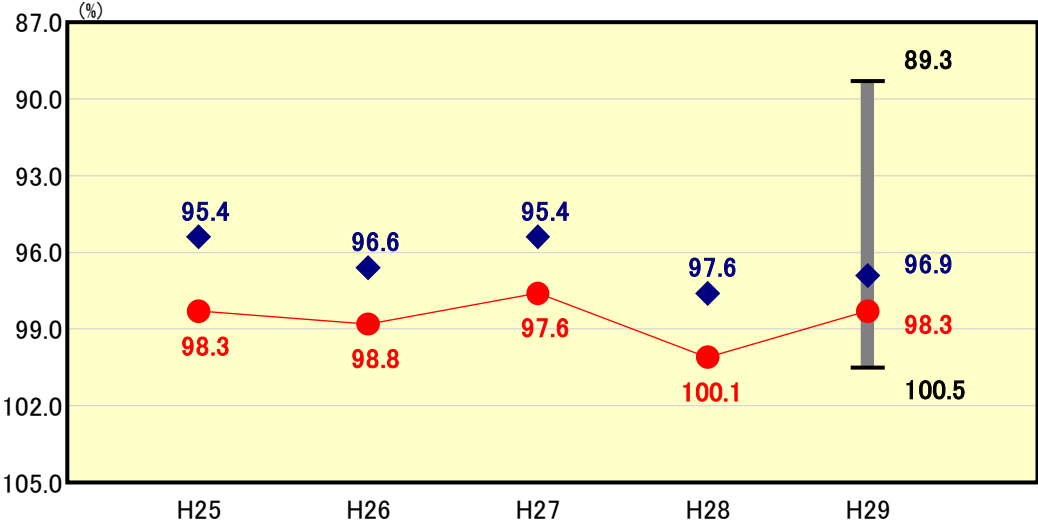
本市の財政力指数は0.90～0.93と、他の政令市と比べ高い水準で推移しているが、地方交付税の交付団体であり、29年度は臨時財政対策債(※)において、746億円の補てん措置が講じられている。

また、直近の状況については、個人市民税(所得割)の増等があるものの、社会保障関係費や臨時財政対策債償還費の増等により、前年度と同じ指数となっている。

(※)地方全体の財源不足に対処するため、特例的に発行する地方債であり、償還に要する費用は後年度の地方交付税算定における基準財政需要額に全額算入される。

財政構造の弾力性

経常収支比率 [98.3%]



類似団体内順位 13/20 全国平均 92.8 大阪府平均 97.5

経常収支比率の分析欄

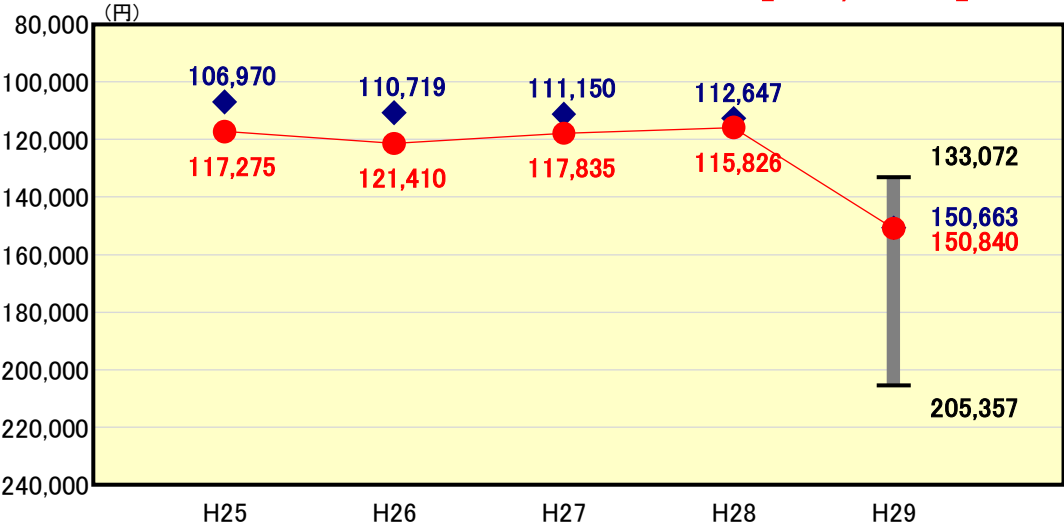
本市では、生活保護費等の扶助費や公債費の負担が大きく、他都市に比べて経常収支比率は常に高い水準で推移している。特に生活保護費については、平成29年度決算では6年連続の減となったものの、高齢化の進展などにより他都市に比べ保護率が高く、経常収支比率を押し上げる大きな要因となっている。

平成28年度は、地方交付税や臨時財政対策債などの減に加え、障がい者自立支援給付費の増などによる扶助費の増加等により悪化したものである。

平成29年度については、扶助費の増や、府費負担教職員制度の見直しに伴い人件費が増となった一方、府民税所得割臨時交付金、地方交付税・臨時財政対策債など、制度見直しに伴う財源が適切に確保されたことや、法人市民税の増などにより、地方税が増となった結果、前年度に比べて△1.8ポイント好転し、98.3%となっている。

人件費・物件費等の状況

人口1人当たり人件費・物件費等決算額 [150,840円]



類似団体内順位 11/20 全国平均 131,654 大阪府平均 120,582

人口1人当たり人件費・物件費等決算額の分析欄

府費負担教職員制度の見直しに伴う人件費の増等により、人口1人当たり人件費・物件費は平成28年度と比較し増加している。

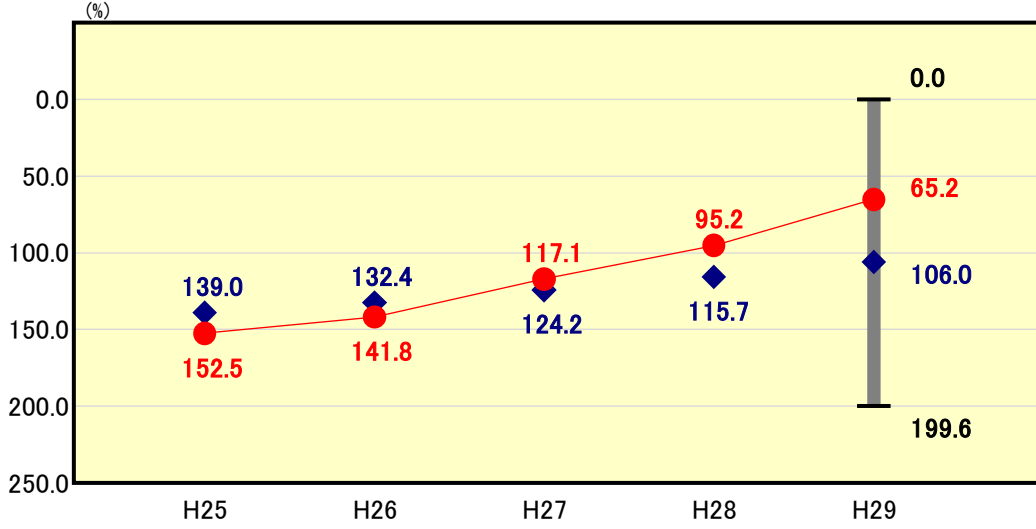
類似団体との比較においては、平成24年7月に策定した「市政改革プラン」や、平成28年8月に策定した「市政改革プラン2.0」に基づき、施策・事業の見直しに取り組んできており、一定の成果をあげたことから、類似団体並となっている。

平成29年度

大阪府大阪市

将来負担の状況

将来負担比率 [65.2%]



類似団体内順位 8/20 全国平均 33.7 大阪府平均 27.5

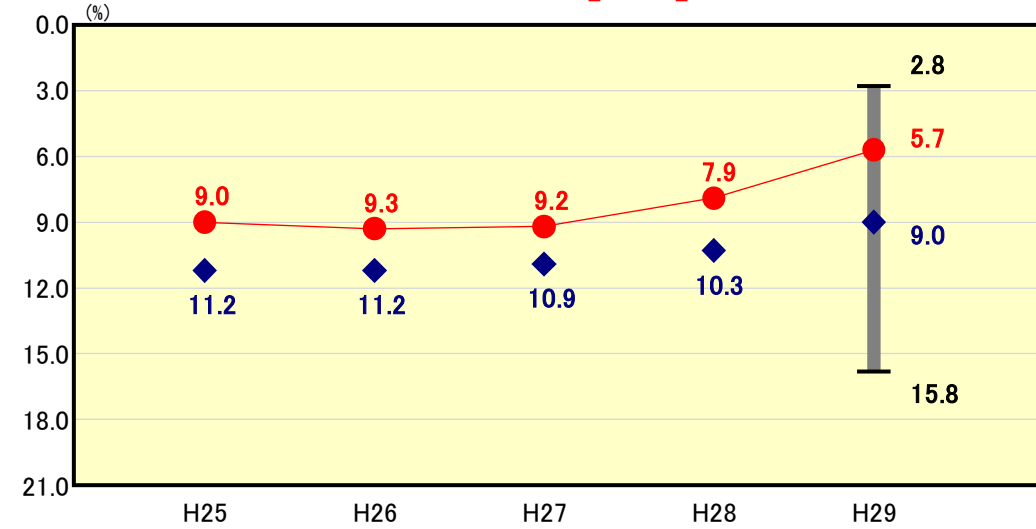
将来負担比率の分析欄

この間の市政改革の取組で、地方債の発行を抑制してきたことにより地方債残高が減少したことが主な要因で、将来負担比率は毎年度着実に改善している。なお、昨年度に引き続き、類似団体平均を下回っている。

今後引き続き市債残高の縮減に努めるなど公債費の抑制を図る。

公債費負担の状況

実質公債費比率 [5.7%]



類似団体内順位 5/20 全国平均 6.4 大阪府平均 5.0

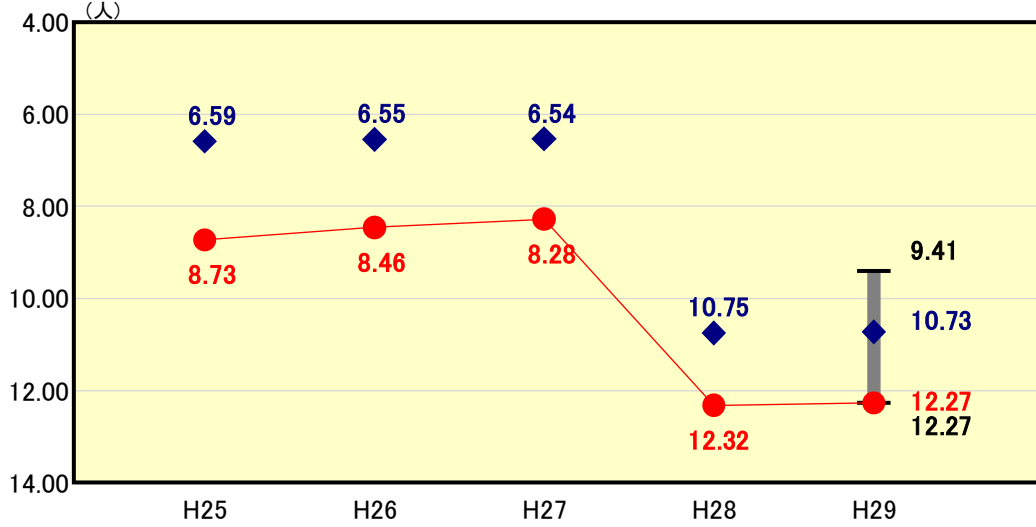
実質公債費比率の分析欄

平成26年度については、弁天町駅前開発土地信託事業(オーク200)の和解金の支払いなどにより一時的に悪化したものの、この間の市政改革の取組で、地方債発行を抑制してきたことにより地方債残高が減少したことや、金利の低下に伴う利子の減などが主な要因で、毎年度着実に改善しており、引き続き類似団体平均を下回っている。

今後引き続き市債残高の縮減に努めるなど公債費の抑制を図る。

定員管理の状況

人口千人当たり職員数 [12.27人]



類似団体内順位 20/20 全国平均 7.91 大阪府平均 8.24

人口千人当たり職員数の分析欄

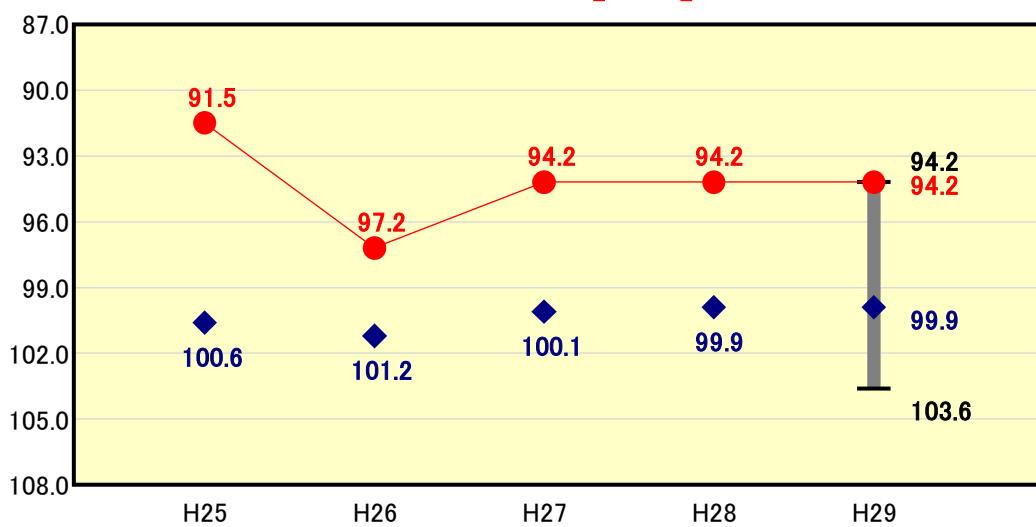
平成30年4月1日の職員数は31,975人(前年比▲1,195人)となっており、人口千人あたりの職員数は昨年度とほぼ横ばいの12.27人となっている。

なお、本市では平成18年度から効果的・効率的な行財政運営をめざして市政改革を進めてきており、平成24年7月に策定した「市政改革プラン」や、平成28年8月に策定した「市政改革プラン2.0」に基づき人員見直しの取組を進めている。

同プランにおいては、平成27年10月1日に約20,920人の市長部局の職員数を平成31年10月1日までに、経営システムの見直し等や、万博、G20等の期間を限定した臨時的増員を除き、約1,000人削減することとしており、引き続きこれに沿った取組を進めていく。

給与水準 (国との比較)

ラスパイレス指数 [94.2]



類似団体内順位 1/20 全国市平均 99.1 全国町村平均 96.4

ラスパイレス指数の分析欄

平成27年度の本市人事委員会勧告のマイナス改定(行政職の改定率▲2.54%)の実施及び給与制度の総合的見直しによる改定(行政職の改定率▲0.89%)の実施により指数が下降した。

平成29年度については、国の人事院勧告に基づく改定率+0.15%に対して、本市人事委員会勧告に基づき改定を見送ったことなどにより、引き続き、類似団体中最低水準となっている。

(4)-1 市町村経常経費分析表(普通会計決算)

平成29年度

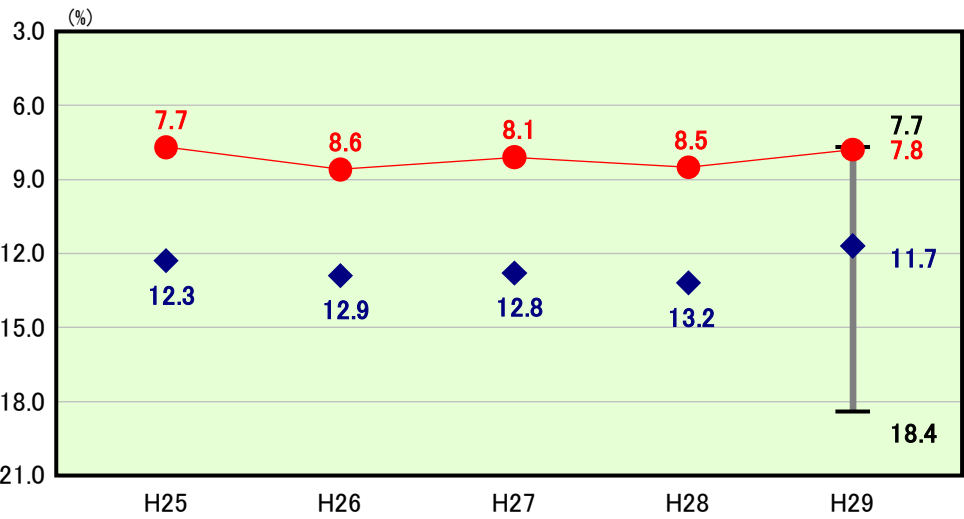
大阪府大阪市

経常収支比率の分析

人	2,702,432	人(H30.1.1現在)	-	%
うち日本人	2,570,850	人(H30.1.1現在)	-	%
面積	225.21	k㎡		
歳入総額	1,742,817,144	千円	実質赤字比率	
歳出総額	1,740,813,287	千円	連結実質赤字比率	
実質収支	419,812	千円	実質公債費比率	5.7%
標準財政規模	848,686,770	千円	将来負担比率	65.2%
地方債現在高	2,069,776,835	千円		
			市町村類型	H25 政令市 H26 政令市 H27 政令市
			(年度毎)	H28 政令市 H29 政令市



物件費



類似団体内順位
2/20

全国平均
14.5

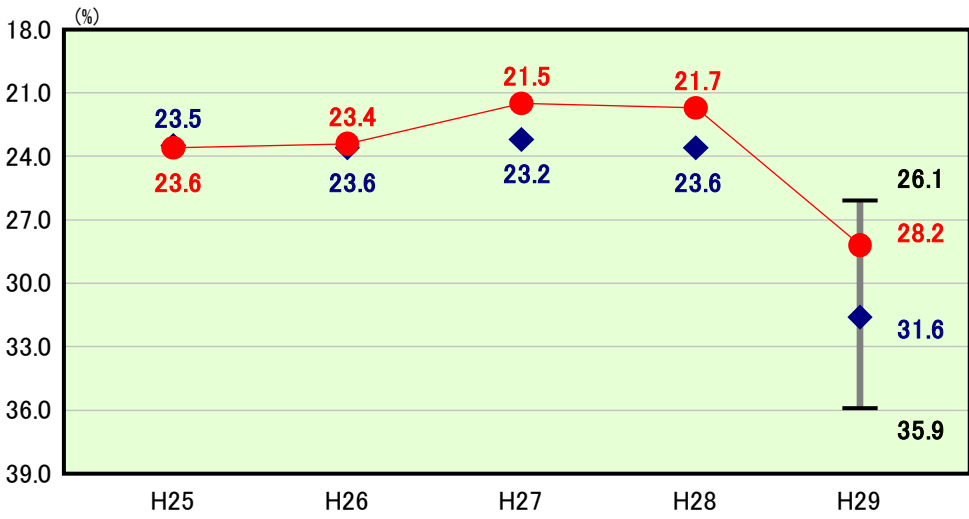
大阪府平均
12.3

物件費の分析欄

府費負担教職員制度の見直しに伴う税源移譲により、比率の算定における経常的一般財源(分母)が増となったことなどから、昨年度から0.7ポイント好転している。

なお、本市では、平成24年7月に策定した「市政改革プラン」や、平成28年8月に策定した「市政改革プラン2.0」に基づき引き続き施策・事業の見直しに取り組んでいることもあり、一定の成果をあげたことから、類似団体中2番目に低い水準となっている。

人件費



類似団体内順位
3/20

全国平均
25.6

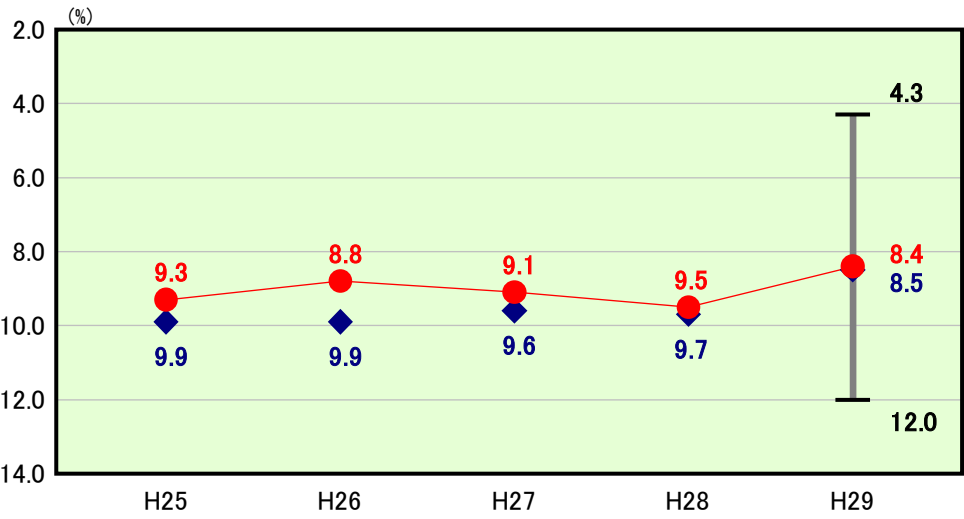
大阪府平均
27.0

人件費の分析欄

府費負担教職員制度の見直しに伴う人件費の増等により、平成29年度と比較すると6.5ポイント悪化している。

なお、「定員管理の状況」と「給与水準(国との比較)」にもあるように、この間職員数の削減に取り組んできたことや、人事委員会勧告による給与改定や給与制度の総合的な見直しに取り組んできたことなどにより、人件費にかかる経常収支比率は類似団体内平均を大きく下回っている。

補助費等



類似団体内順位
14/20

全国平均
10.1

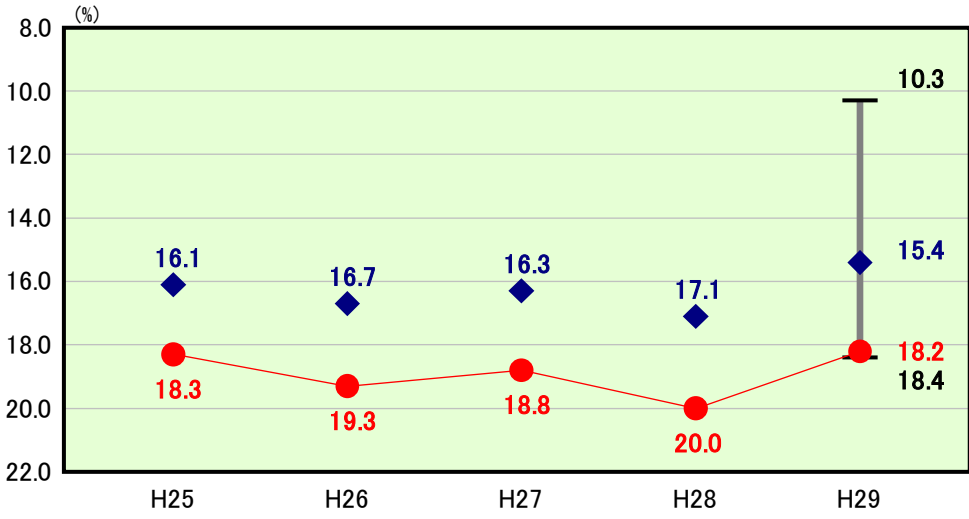
大阪府平均
9.7

補助費等の分析欄

府費負担教職員制度の見直しに伴う税源移譲により、比率の算定における経常的一般財源(分母)が増となったことなどから、昨年度から1.1ポイント好転している。

なお、平成18年度に策定した「補助金等のあり方に関するガイドライン」に基づき、引き続き不断の見直しによる補助金の適正化を進めるなど更なる削減に努めている。

扶助費



類似団体内順位
19/20

全国平均
12.4

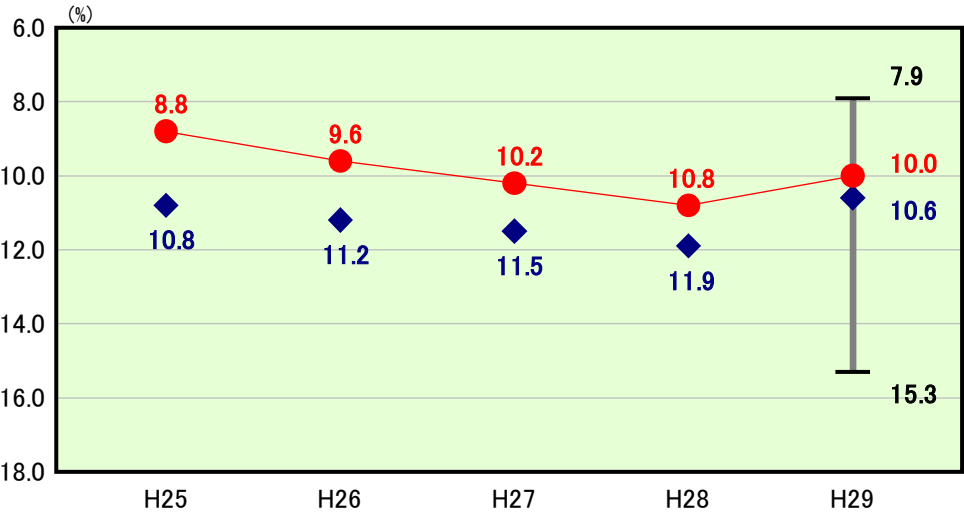
大阪府平均
17.2

扶助費の分析欄

府費負担教職員制度の見直しに伴う税源移譲により、比率の算定における経常的一般財源(分母)が増となったことなどから、昨年度から1.8ポイント好転している。

なお、平成29年度決算では生活保護費は6年連続の減となったものの、依然として類似団体と比較し多額であることに加え、障がい者自立支援給付費や教育・保育給付費が増となっていることなどにより扶助費は増加しており、扶助費にかかる経常収支比率は高水準で推移している。引き続き、生活保護の適正実施に取り組んでおり、被保護者への適正受診支援や就労自立支援の強

その他



類似団体内順位
8/20

全国平均
13.3

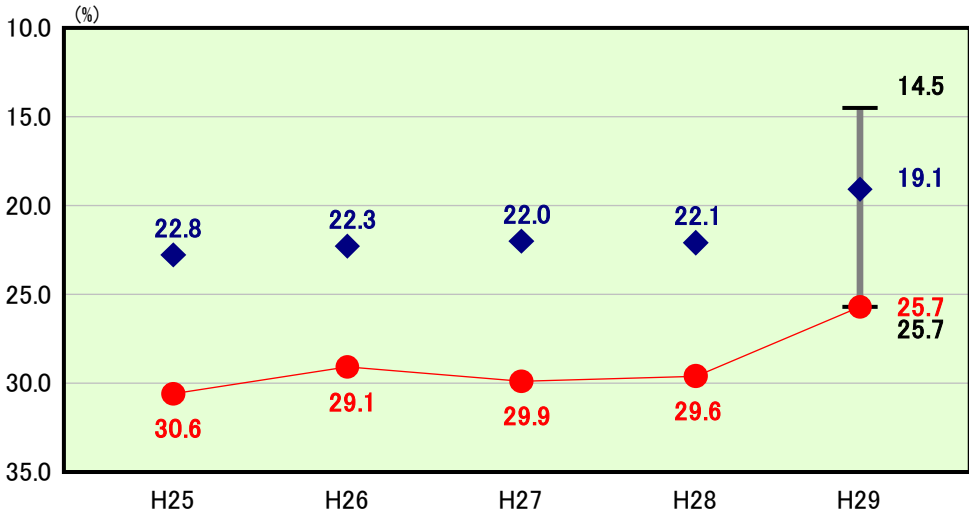
大阪府平均
12.4

その他の分析欄

府費負担教職員制度の見直しに伴う税源移譲により、比率の算定における経常的一般財源(分母)が増となったことなどから、昨年度から0.8ポイント好転している。

なお、高齢化の進展に伴い、介護保険事業会計および後期高齢者医療事業会計への繰出金が増加傾向にあるものの、この間効果的・効率的な行財政運営をめざして、市政改革を進めてきた結果、類似団体と比較し低い傾向が続いている。

公債費



類似団体内順位
20/20

全国平均
16.9

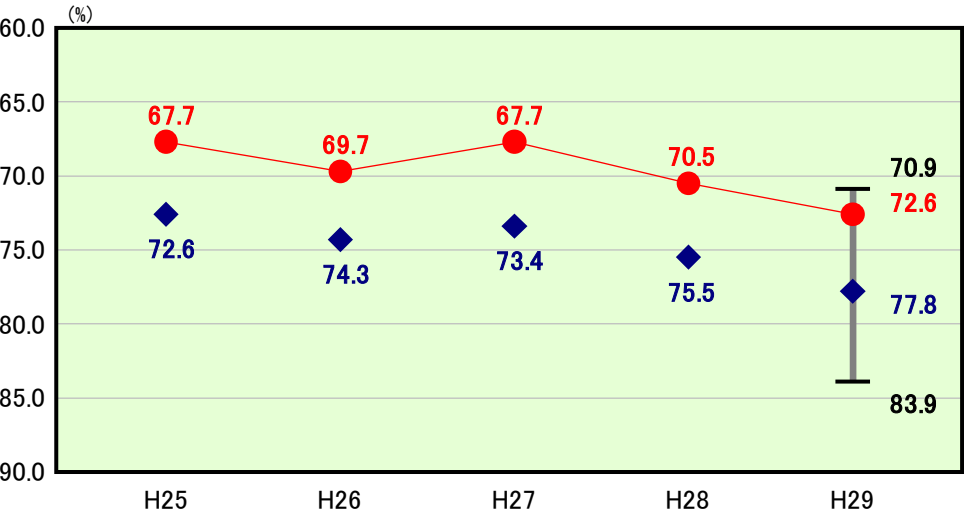
大阪府平均
18.9

公債費の分析欄

府費負担教職員制度の見直しに伴う税源移譲により、比率の算定における経常的一般財源(分母)が増となったことなどから、昨年度から3.9ポイント好転している。

なお、本市では、都市基盤と生活環境の整備のために、早くから積極的に市債を活用してきたことなどから、公債費にかかる経常収支比率は高水準で推移しているが、近年においては、臨時財政対策債の多額の発行があるものの、その他の新規発行額を極力抑制してきたことから、平成29年度決算において、臨時財政対策債を除いた市債残高は、12年連続して減少している。

公債費以外



類似団体内順位
2/20

全国平均
75.9

大阪府平均
78.6

公債費以外の分析欄

府費負担教職員制度の見直しに伴う人件費の増等により、平成29年度と比較すると2.1ポイント悪化している。

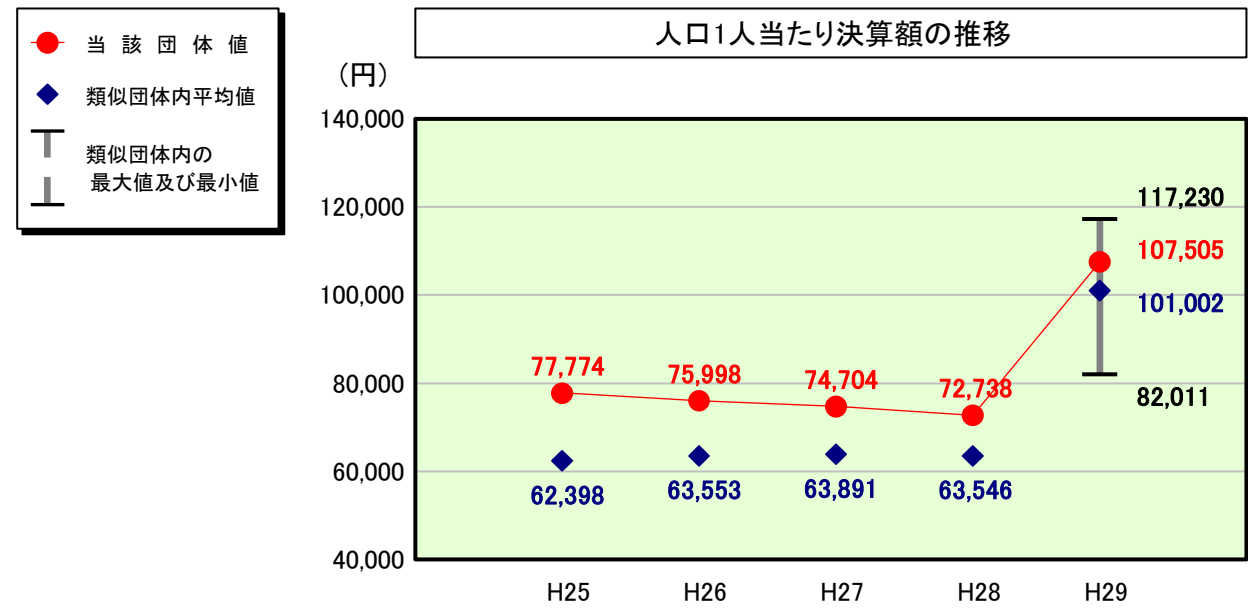
なお、扶助費にかかる経常収支比率が高水準で推移しているものの、人件費や物件費にかかる経常収支比率は類似団体平均との比較で低い水準にあることから、平成29年度決算においても引き続き、類似団体内平均より低い傾向となっている。

(4)-2 市町村経常経費分析表(普通会計決算)

平成29年度

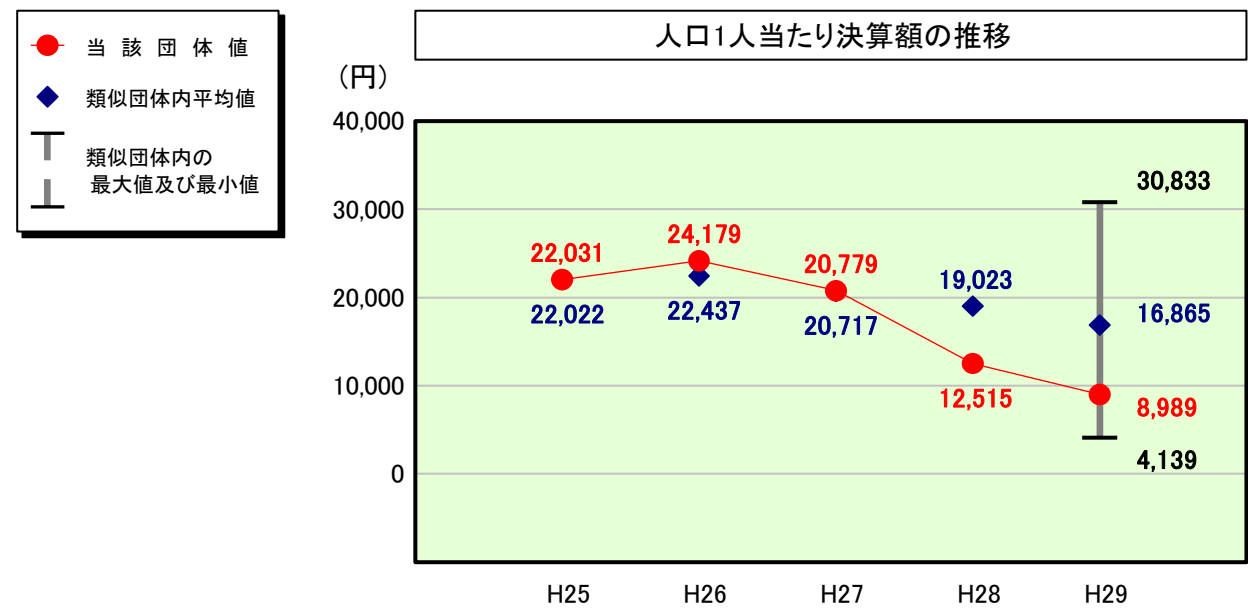
大阪府大阪市

人件費及び人件費に準ずる費用の分析

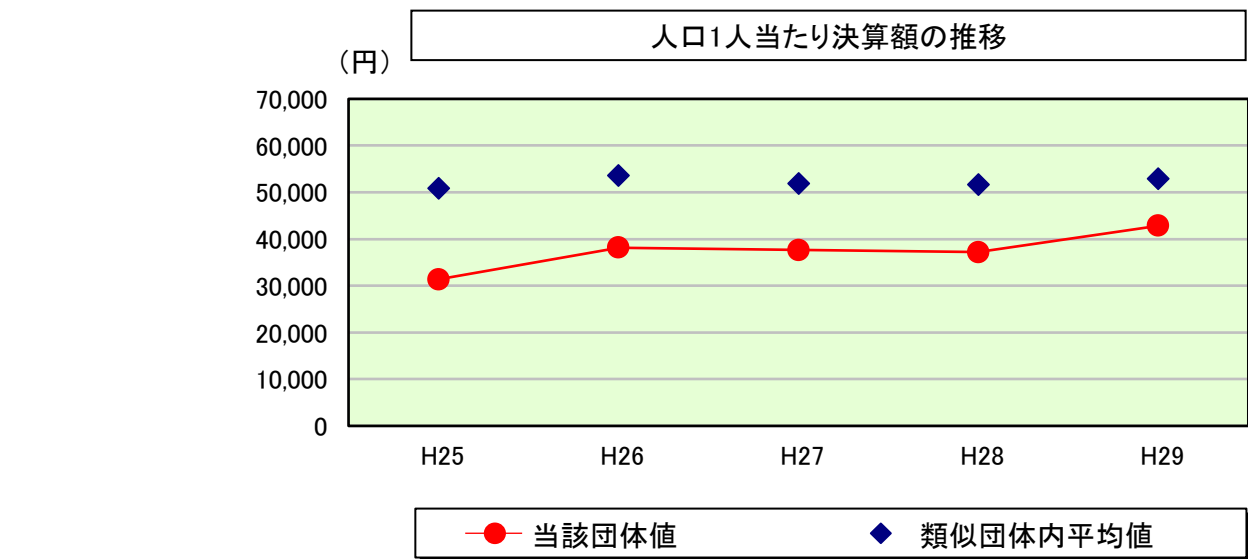


(注) 人口については、各調査年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。
(注) 参考については、地方公務員給与実態調査に基づくものであるが、当該資料作成時点（平成31年1月末時点）において平成30年調査結果が未公表であるため、前年度の数値を引用している。

公債費及び公債費に準ずる費用の分析



(参考) 普通建設事業費の分析



人件費及び人件費に準ずる費用

	当該団体決算額 (千円)	人口1人当たり決算額		
		当該団体 (円)	類似団体平均 (円)	対比 (%)
人件費	300,873,562	111,334	103,239	7.8
賃金（物件費）	1,913,578	708	1,489	▲ 52.5
一部事務組合負担金（補助費等）	2,683,118	993	133	646.6
公営企業（法適）等に対する繰出し（補助費等）	883,226	327	1,246	▲ 73.8
公営企業（法適）等に対する繰出し（投資及び出資金・貸付金）	-	-	5	-
公営企業（法非適）等に対する繰出し（繰出金）	5,563,494	2,059	1,915	7.5
事業費支弁に係る職員の人件費（投資的経費）	2,113,538	782	1,191	▲ 34.3
▲退職金	▲ 23,505,377	▲ 8,698	▲ 8,217	5.9
合計	290,525,139	107,505	101,002	6.4

参考

	当該団体	類似団体平均	対比（差引）
人口1,000人当たり職員数（人）	12.27	10.73	1.54
ラスパイレス指数	94.2	99.9	▲ 5.7

公債費及び公債費に準ずる費用（実質公債費比率の構成要素）

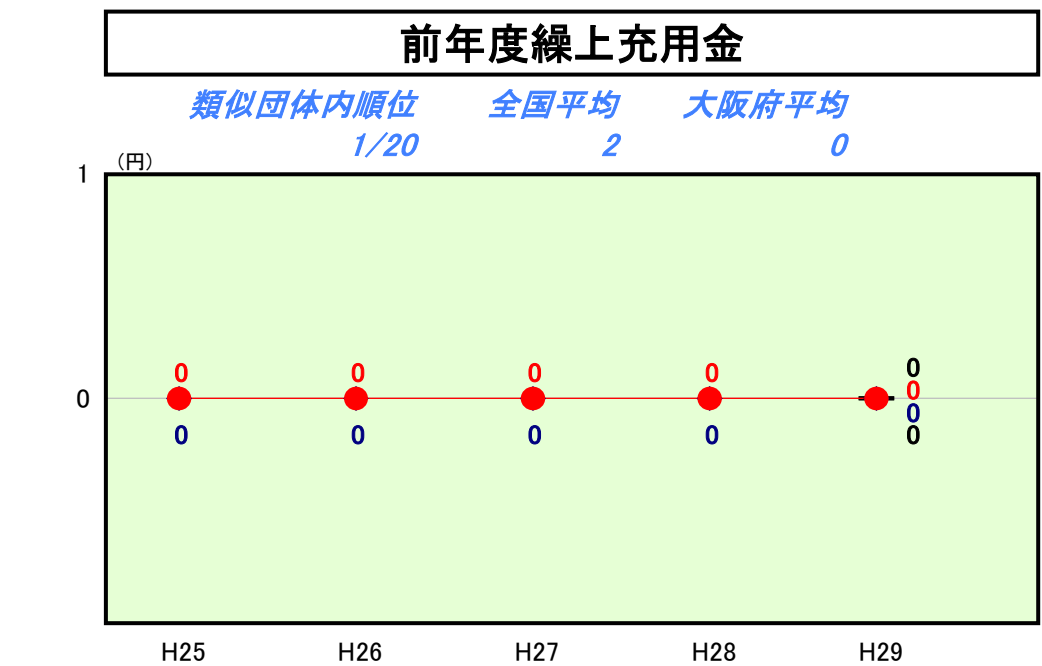
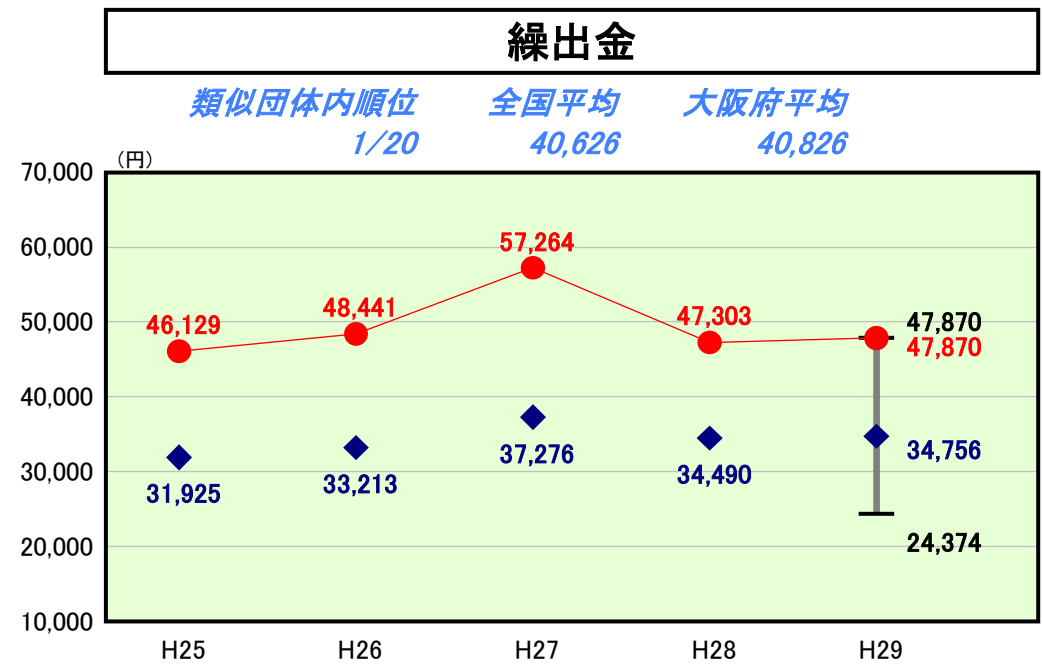
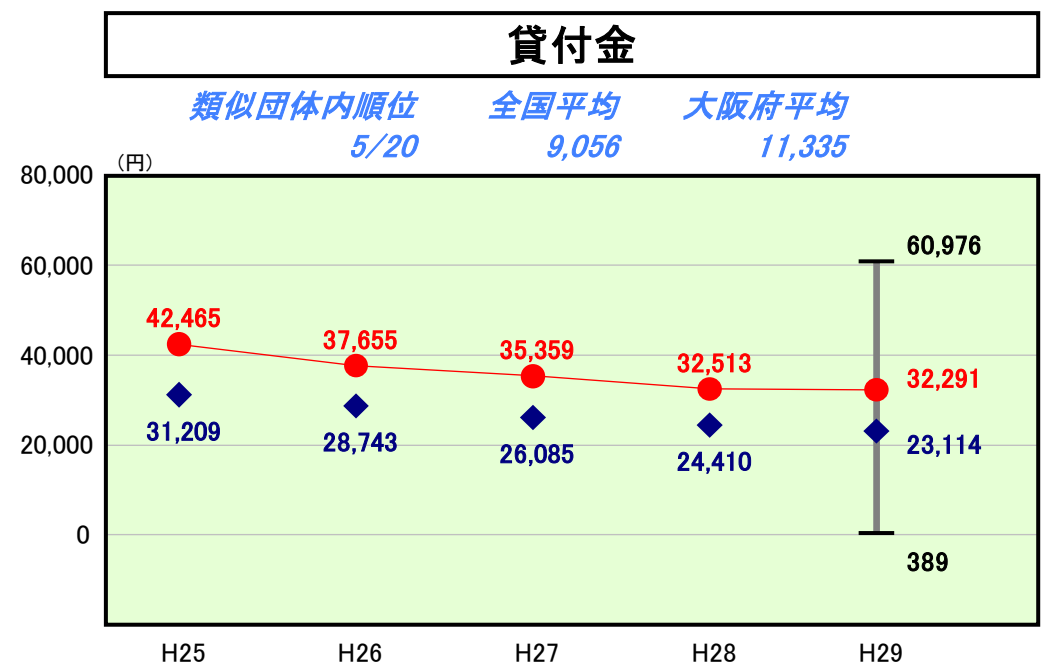
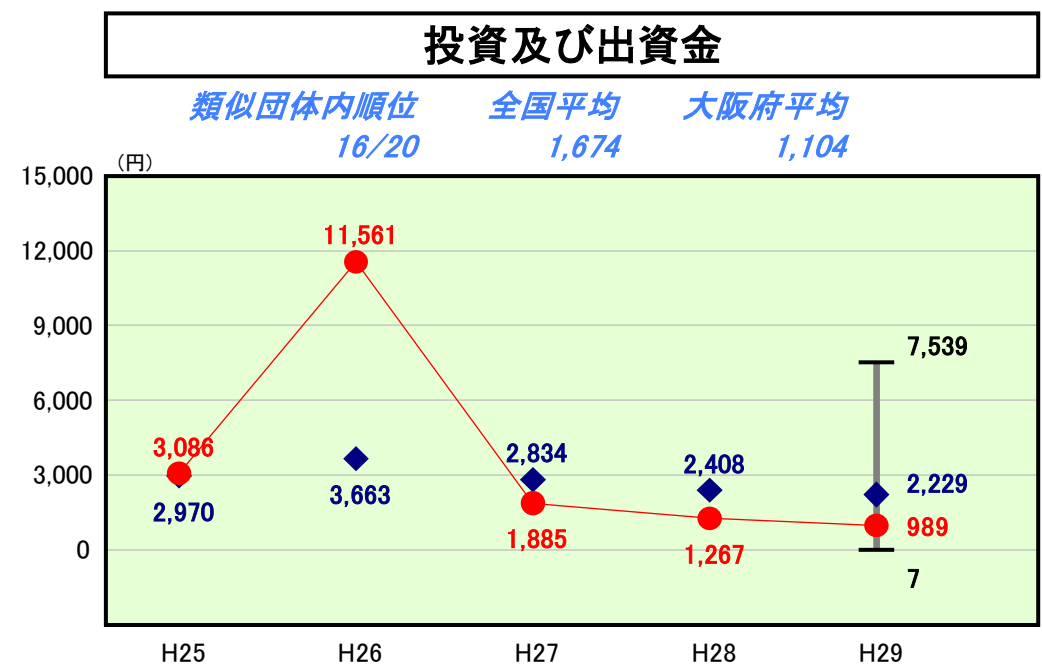
	当該団体決算額 (千円)	人口1人当たり決算額		
		当該団体 (円)	類似団体平均 (円)	対比 (%)
元利償還金の額 （繰上償還額等を除く）	91,415,604	33,827	32,104	5.4
積立不足額を考慮して算定した額	-	-	2,346	-
満期一括償還地方債の一年当たりの元金償還金に相当するもの （年度割相当額）	90,868,971	33,625	20,571	63.5
公営企業に要する経費の財源とする地方債の償還の財源に 充てたと認められる繰入金	28,678,213	10,612	11,957	▲ 11.2
一部事務組合等の起こした地方債に充てたと認められる 補助金又は負担金	1,420,872	526	209	151.7
公債費に準ずる債務負担行為に係るもの	9,503,636	3,517	1,143	207.7
一時借入金利子 （同一団体における会計間の現金運用に係る利子は除く）	-	-	1	-
▲特定財源の額	▲ 83,571,507	▲ 30,925	▲ 17,221	79.6
▲地方債に係る元利償還金及び準元利償還金に要する経費として 普通交付税の額の算定に用いる基準財政需要額に算入された額	▲ 114,023,488	▲ 42,193	▲ 34,244	23.2
合計	24,292,301	8,989	16,865	▲ 46.7

※平成30年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

大阪府大阪市

 当該団体値
 類似団体内平均値
 類似団体内の
最大値及び最小値

※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、平成29年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。



本市における主な構成項目は、人件費・扶助費・公債費であり、中でも扶助費及び公債費は、依然として類似団体と比較して住民一人当たりコストが高い状況となっている。

人件費については、府費負担教職員制度の見直しに伴い、昨年度と比べ大きく増となっている。

扶助費については、平成29年度決算では生活保護費は6年連続の減となったものの、障がい者自立支援給付費や教育・保育給付費が増となっていることなどにより扶助費は増加している。

また、公債費については、利子償還額が減ったことなどにより昨年度と比べ減少している。

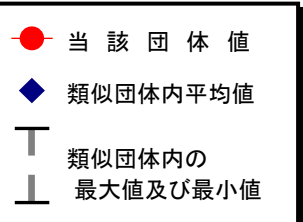
そのほか、積立金については、交通事業の民営化に伴う、高速鉄道事業会計からの繰入金を財源とした交通政策基金への積立を行ったことなどにより増加している。

(6)市町村目的別歳出決算分析表(住民一人当たりのコスト)

平成29年度

大阪府大阪市

人	口	2,702,432	人(H30.1.1現在)	実	質	赤	字	比	率	-	%						
うち	日本	2,570,850	人(H30.1.1現在)	連	結	実	質	赤	字	比	率	5.7	%				
面積	積	225.21	km ²	実	質	公	債	費	担	比	率	65.2	%				
歳入	総額	1,742,817,144	千円	将	来	負	担	比	率								
歳出	総額	1,740,813,287	千円	市	町	村	類	型		H25	政令市	H26	政令市	H27	政令市		
実質	収支	419,812	千円	(	年	度	毎	)		H28	政令市						
標準	財政規模	848,686,770	千円														
地方債	現在高	2,069,776,835	千円														

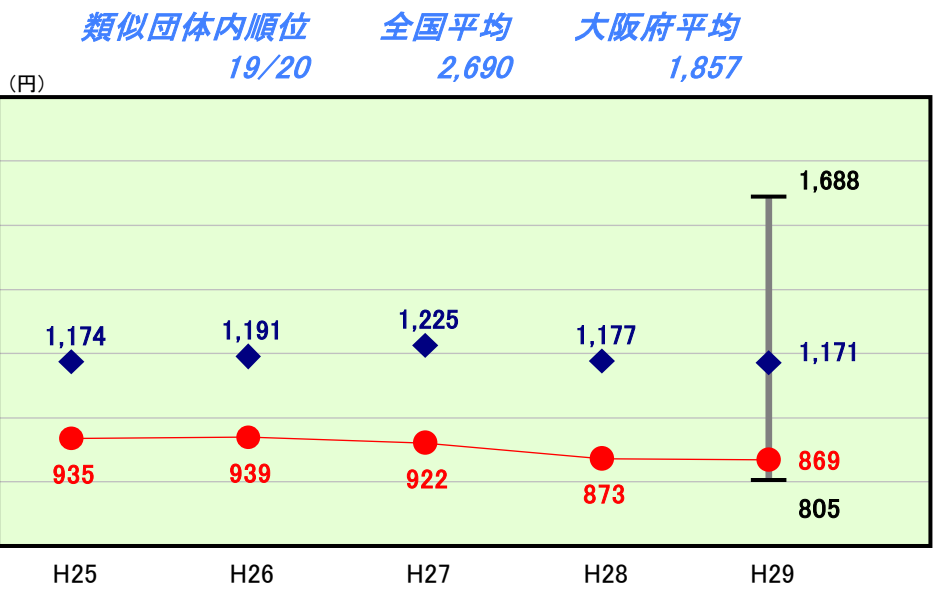


※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。

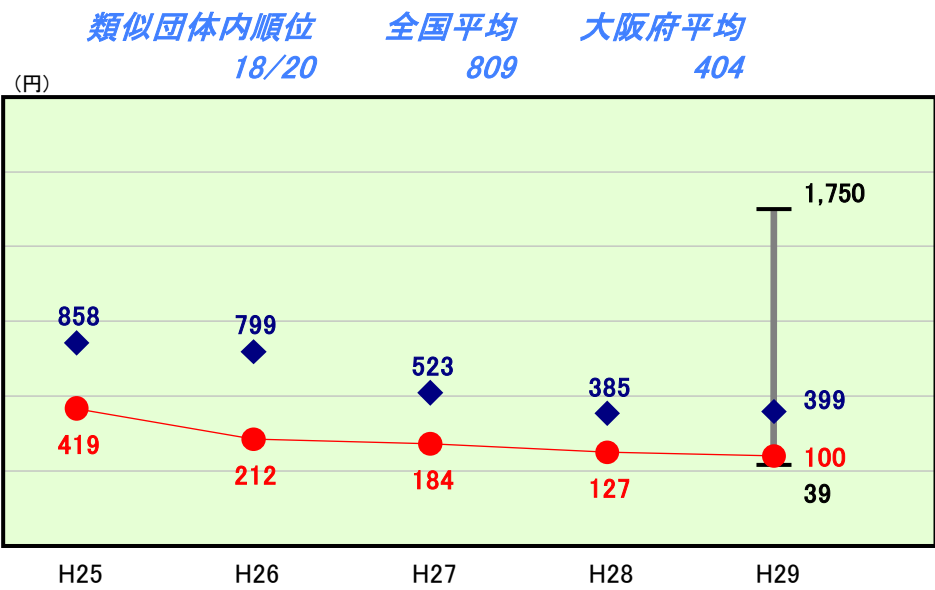
※ 住民基本台帳人口については、住民基本台帳関係年報の調査基準日変更に伴い、平成25年度以降、調査年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口を記載。

※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、平成29年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。

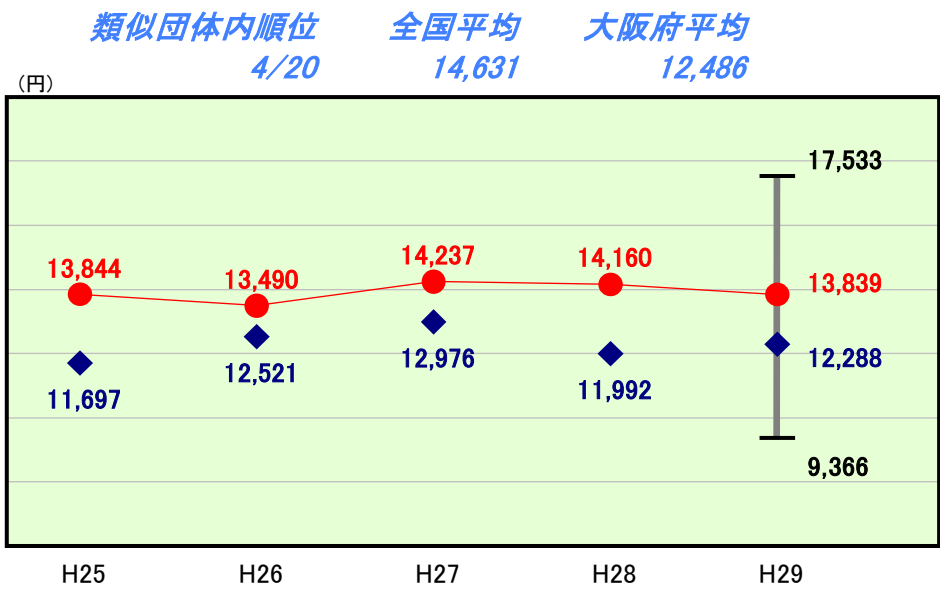
議会費



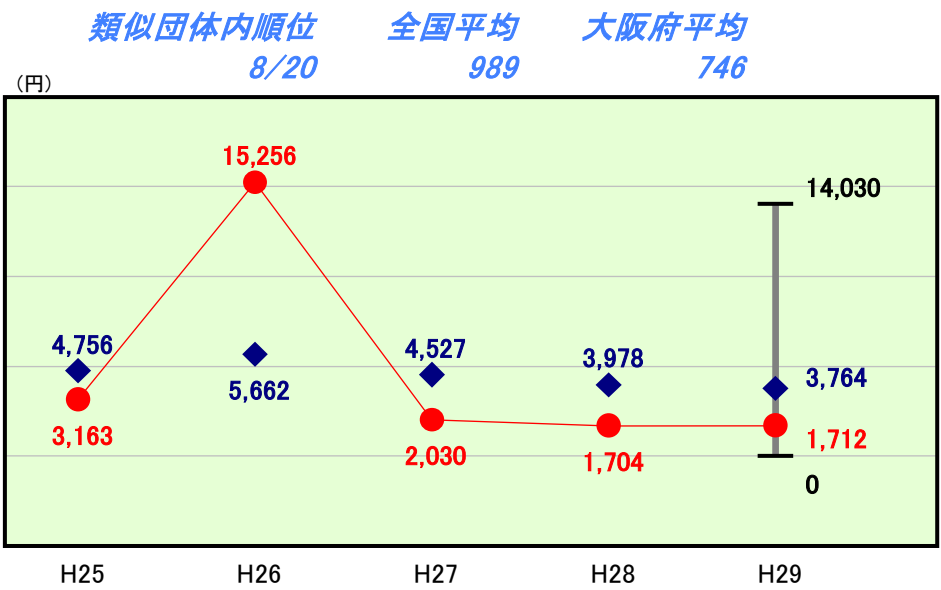
労働費



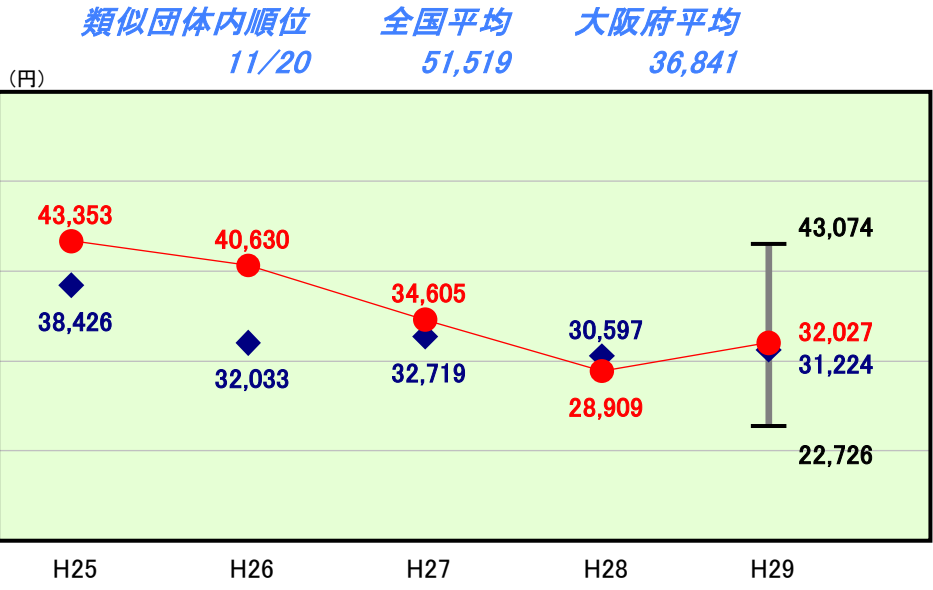
消防費



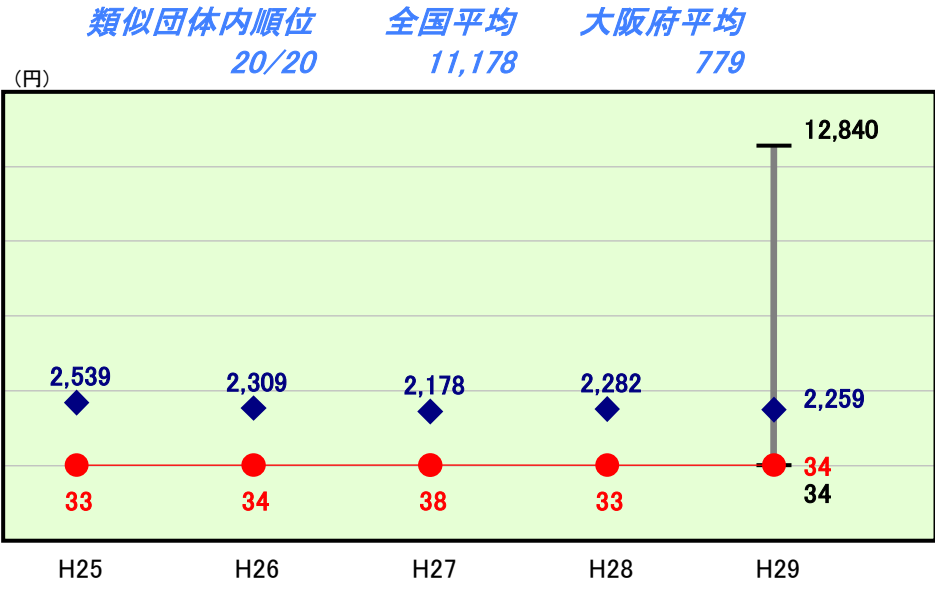
諸支出金



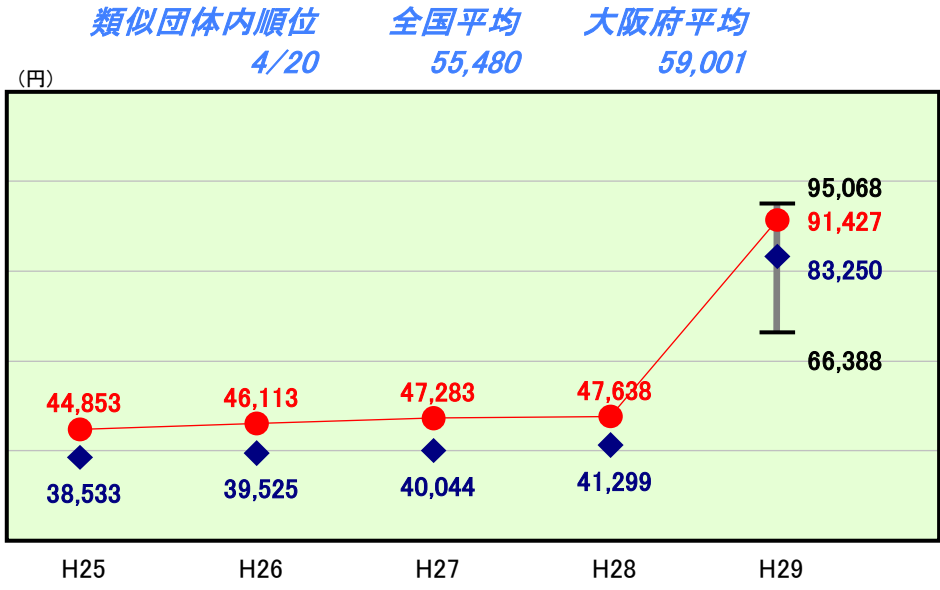
総務費



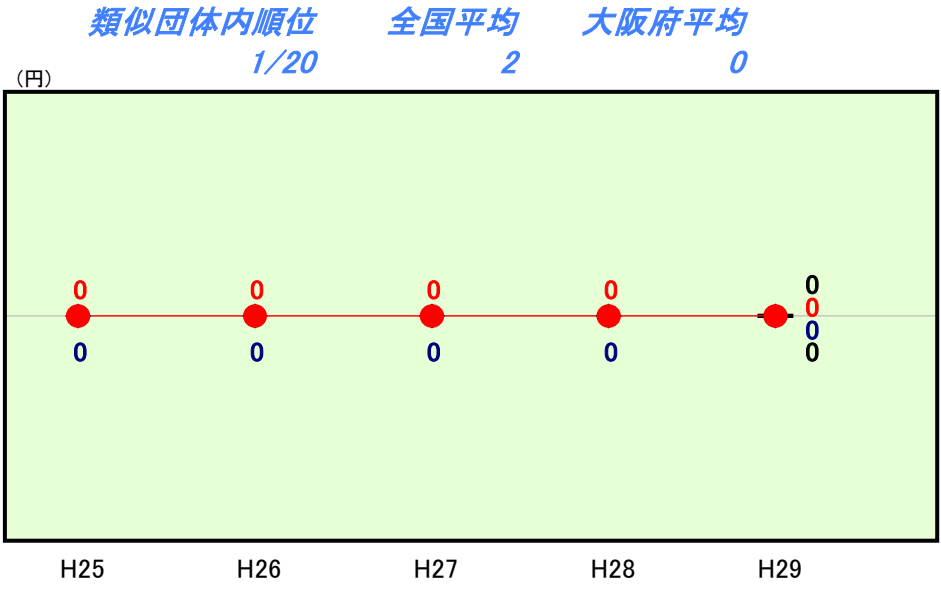
農林水産業費



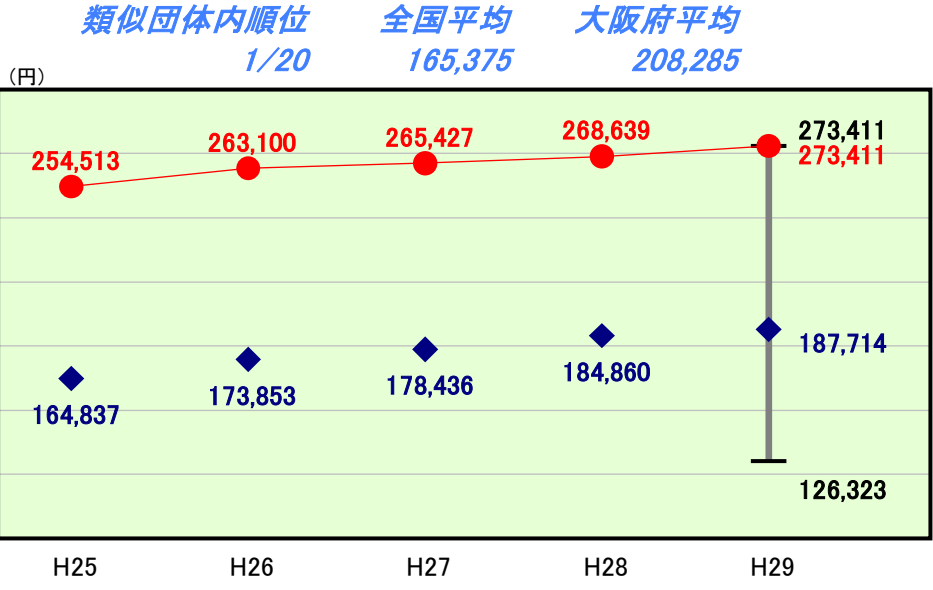
教育費



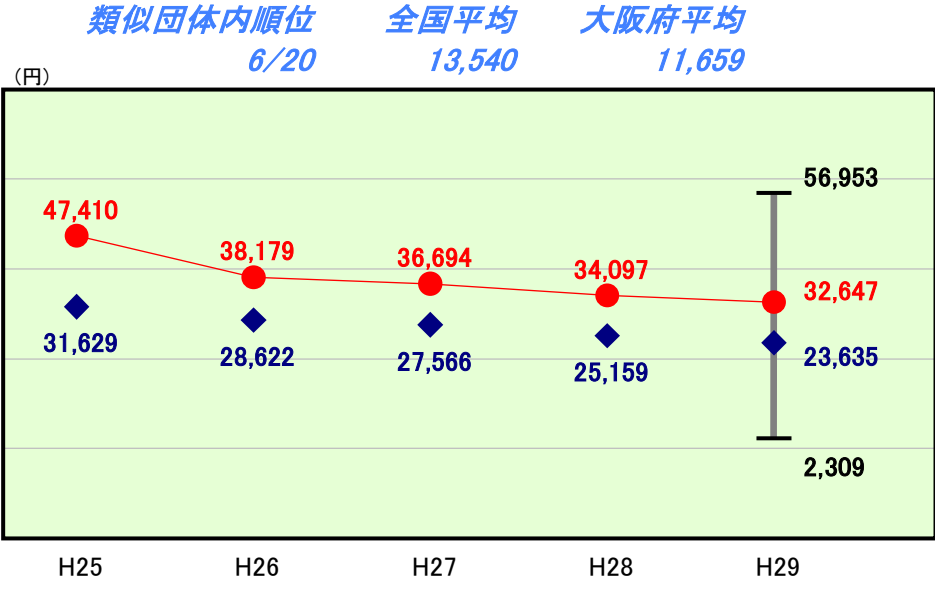
前年度繰上充用金



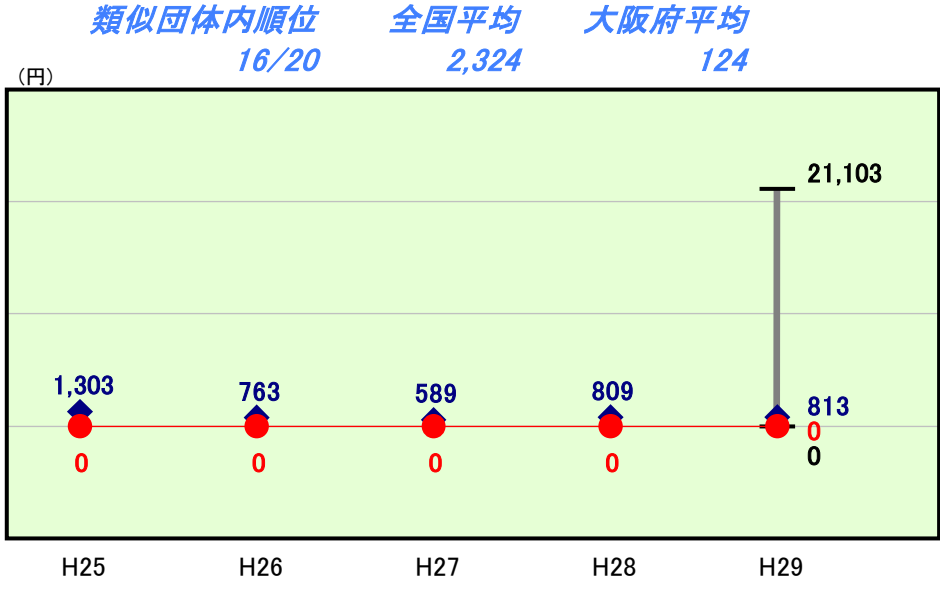
民生費



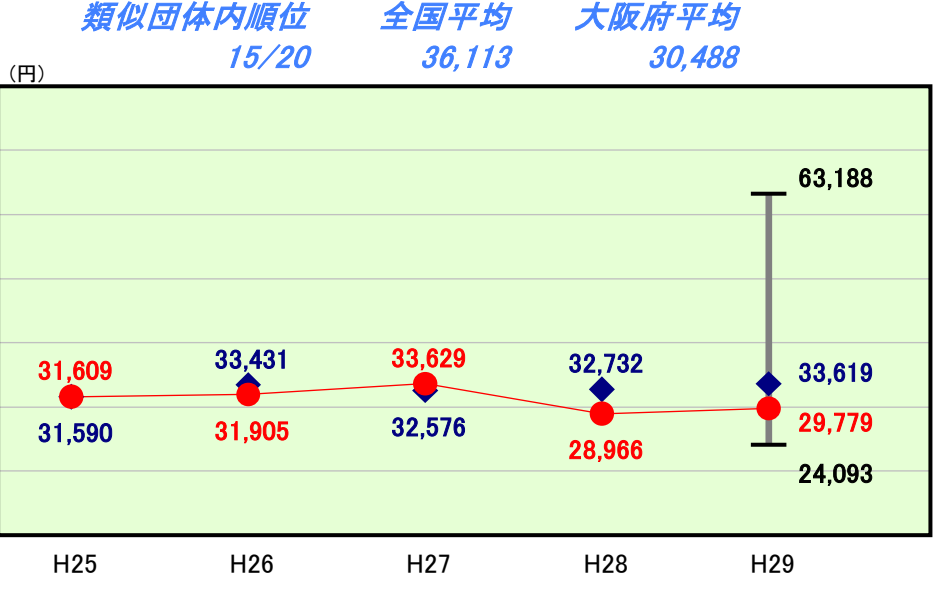
商工費



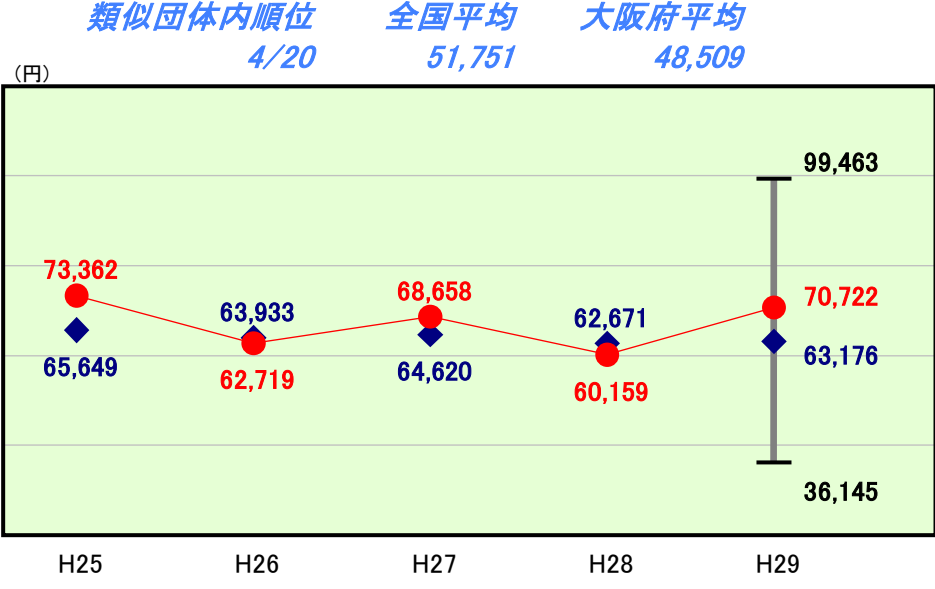
災害復旧費



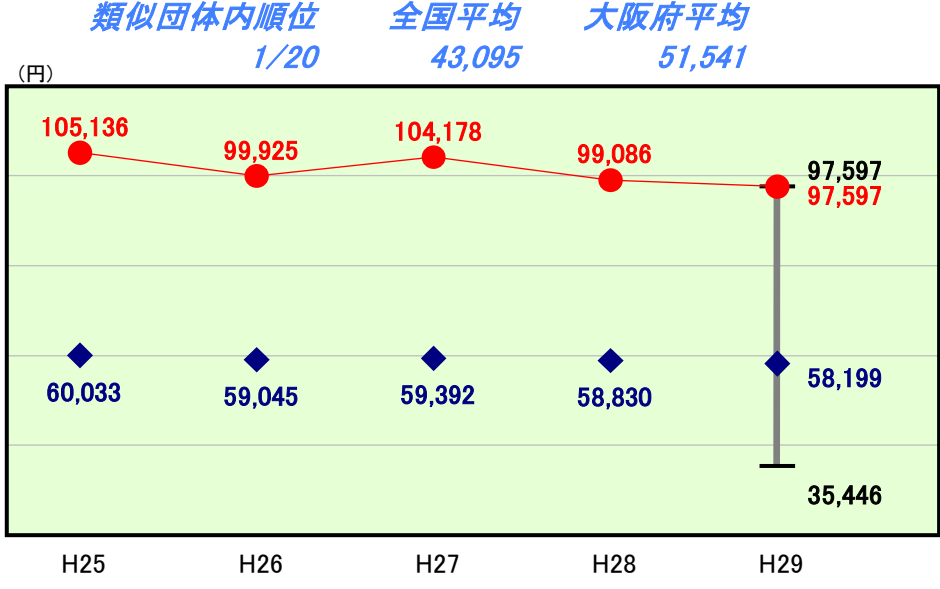
衛生費



土木費



公債費



目的別歳出の分析欄

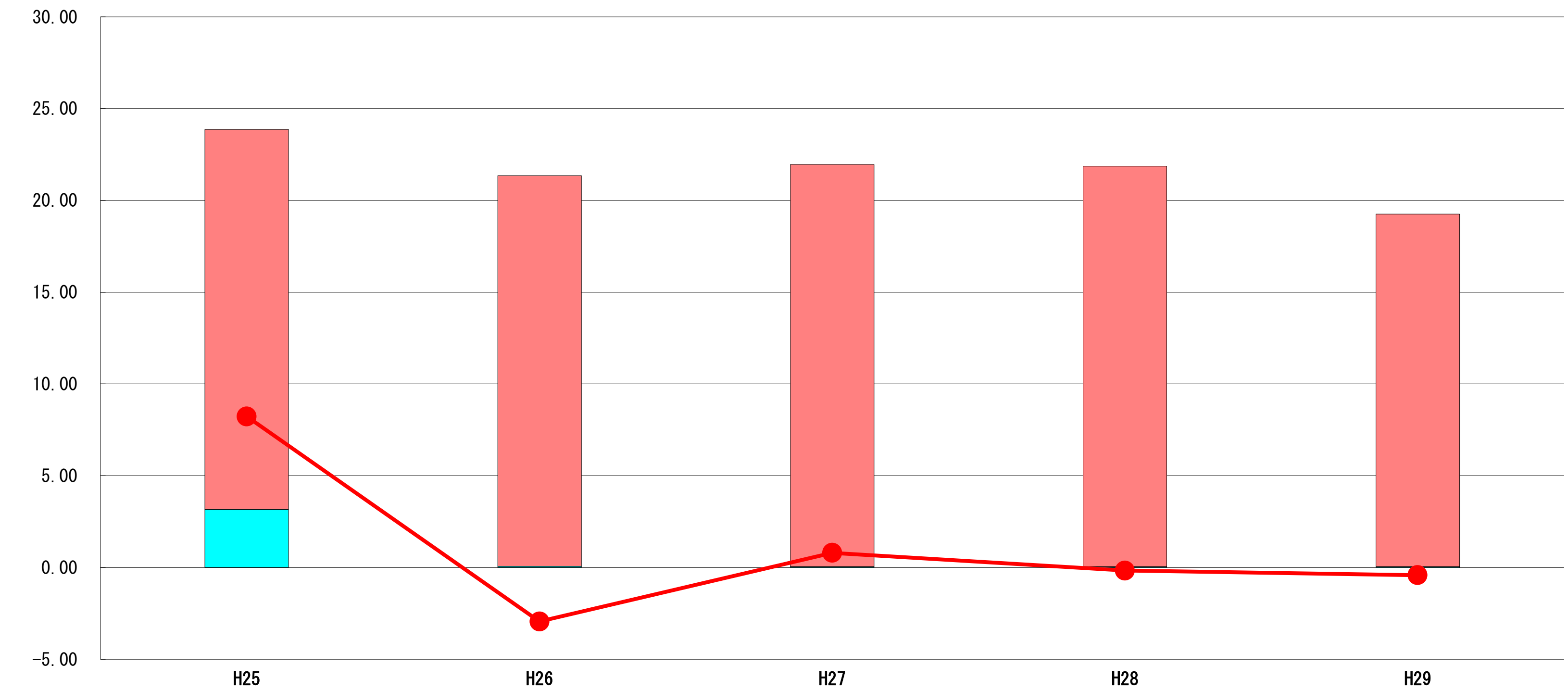
民生費、公債費が、類似団体と比較して住民一人当たりコストが依然として高い状況となっている。
民生費については、平成29年度決算では生活保護費は6年連続の減となったものの、障がい者自立支援給付費や教育・保育給付費が増となったことなどにより引き続き増加している。
公債費については、利子償還額が減となったことなどにより昨年度と比べ減少している。
そのほか、教育費については、府費負担教職員制度の見直しに伴う人件費の増により増加している。

(7) 実質収支比率等に係る経年分析（市町村）

平成29年度

大阪府大阪市

標準財政規模比（％）



		標準財政規模比（％）				
区分	年度	H25	H26	H27	H28	H29
財政調整基金残高		20.70	21.29	21.91	21.82	19.21
実質収支額		3.17	0.06	0.05	0.05	0.05
実質単年度収支		8.23	▲ 2.94	0.80	▲ 0.17	▲ 0.42

分析欄

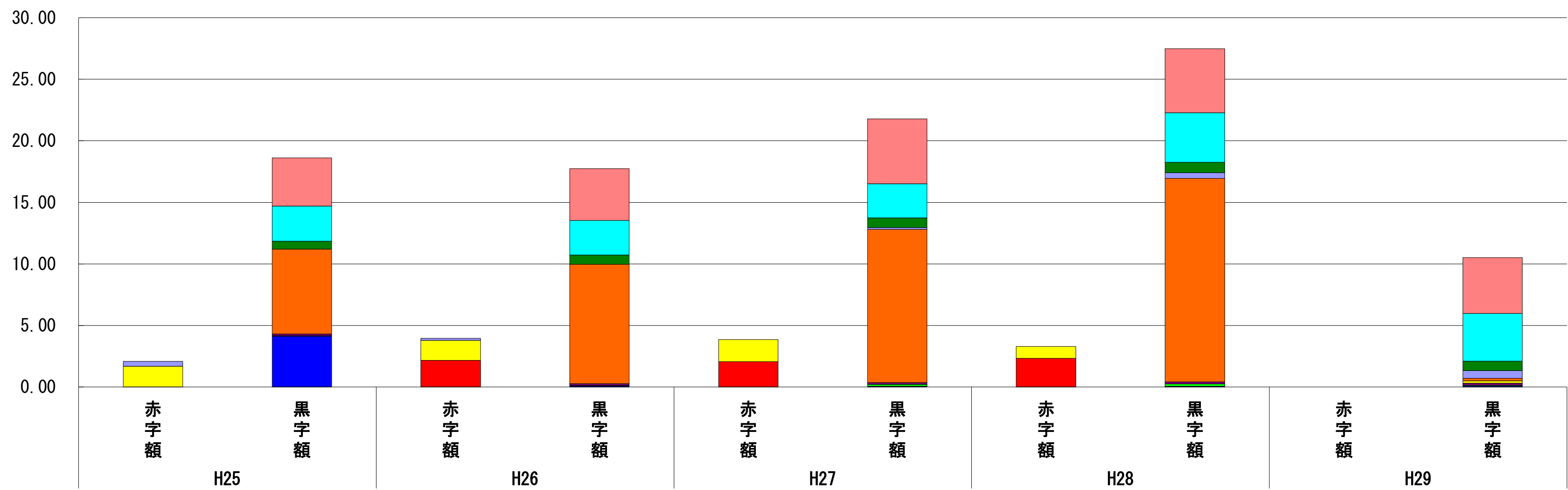
扶助費の増や、府費負担教職員費の見直し等に伴い人件費が増となった一方、府民税所得割臨時交付金、地方交付税・臨時財政対策債など、制度見直しに伴う財源が適切に確保されたことや、法人市民税の増などにより、地方税が増となった結果、4億円の実質黒字となり、実質収支の標準財政規模比も昨年から横ばいとなっている。

(8) 連結実質赤字比率に係る赤字・黒字の構成分析（市町村）

平成29年度

大阪府大阪市

標準財政規模比（％）



標準財政規模比（％）

年度		H25	H26	H27	H28	H29
会計						
水道事業会計		3.93	4.19	5.27	5.22	4.53
下水道事業会計		2.84	2.81	2.76	4.00	3.87
工業用水道事業会計		0.65	0.76	0.81	0.87	0.78
中央卸売市場事業会計		▲ 0.38	▲ 0.18	0.13	0.45	0.62
高速鉄道事業会計		6.89	9.70	12.45	16.53	0.21
国民健康保険事業会計		▲ 1.69	▲ 1.61	▲ 1.79	▲ 0.97	0.19
後期高齢者医療事業会計		0.14	0.15	0.16	0.17	0.16
介護保険事業会計		0.05	0.05	0.14	0.19	0.08
その他会計（赤字）		-	▲ 2.17	▲ 2.05	▲ 2.32	-
その他会計（黒字）		4.12	0.07	0.06	0.06	0.07

分析欄

平成29年度決算では、全ての会計において黒字（資金剰余）となったため、連結実質赤字比率は生じていない。

なお、前年度まで発生していた国民健康保険事業会計の赤字については、国庫負担金が例年以上に過大交付であったことに加え、医療費適正化などの取組みに対する国からの交付金が多く確保できたことなどにより、平成29年度決算では黒字となった。

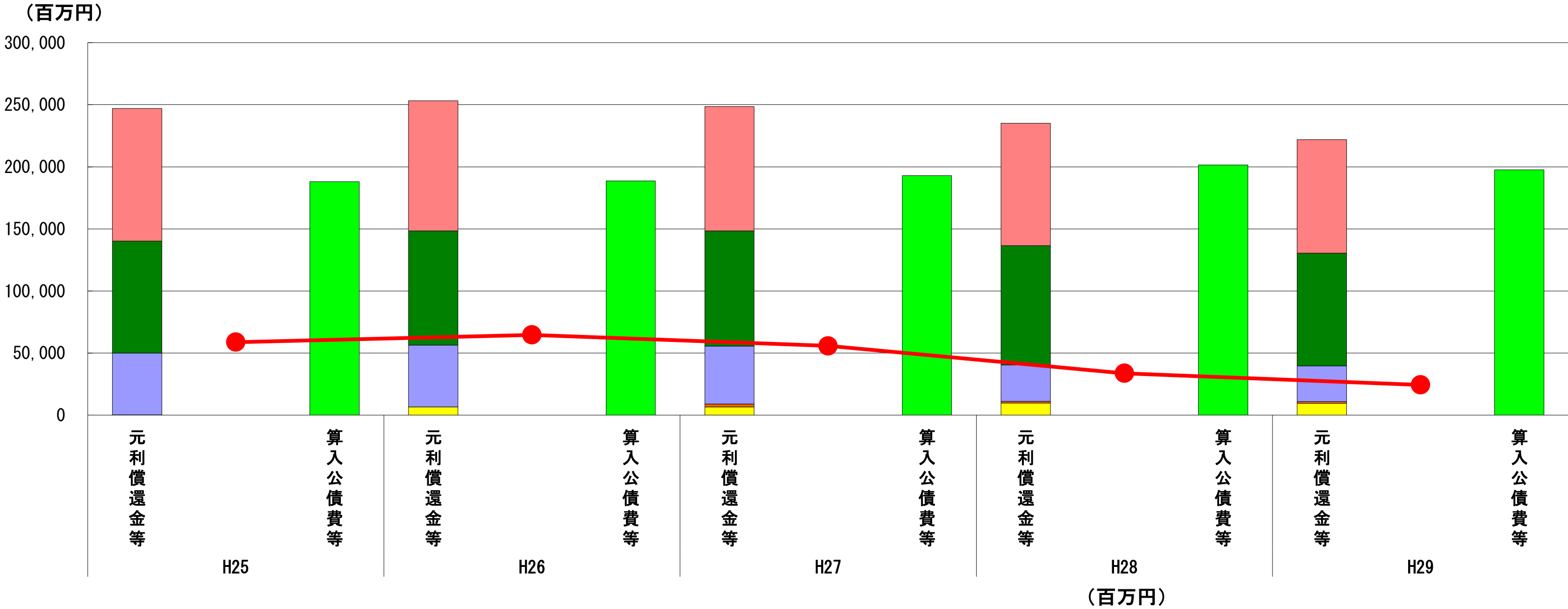
また、平成26年度決算で資金不足比率が経営健全化基準（20％）以上であった自動車運送事業会計については、大阪シティバス株式会社への事業の引継ぎ（民営化）に伴う終結処理により、経営健全化計画に比べ1年前倒しで、平成29年度決算において、赤字（資金不足）が解消された。

※平成30年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく連結実質赤字比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

(9) 実質公債費比率（分子）の構造（市町村）

平成29年度

大阪府大阪市



分子の構造		年度	H25	H26	H27	H28	H29
元利償還金等 (A)	元利償還金		106,719	104,895	100,289	98,498	91,416
	減債基金積立不足算定額		-	-	-	-	-
	満期一括償還地方債に係る年度割相当額		90,165	91,953	92,740	96,041	90,869
	公営企業債の元利償還金に対する繰入金		49,827	49,786	46,688	29,493	28,678
	組合等が起こした地方債の元利償還金に対する負担金等		-	-	2,369	1,401	1,421
	債務負担行為に基づく支出額		199	6,566	6,536	9,624	9,504
	一時借入金の利子		-	-	-	-	-
算入公債費等 (B)	算入公債費等		188,135	188,624	192,901	201,375	197,595
(A) - (B)	実質公債費比率の分子		58,775	64,576	55,721	33,682	24,293

分析欄

平成27年度以降における実質公債費比率の分子が減少している要因は、この間の市政改革の取組により、地方債発行を抑制したことに伴い、地方債残高が減少していることや、金利の低下に伴う利子の減などによるものである。

なお、平成26年度に実質公債費比率の分子が増加している要因は、弁天駅前開発土地信託事業（オーク200）の和解金の支払いなどにより、債務負担行為に基づく支出額が増加したことなどによるものである。

今後も引き続き市債残高の縮減に努めるなど、公債費の抑制を図る。

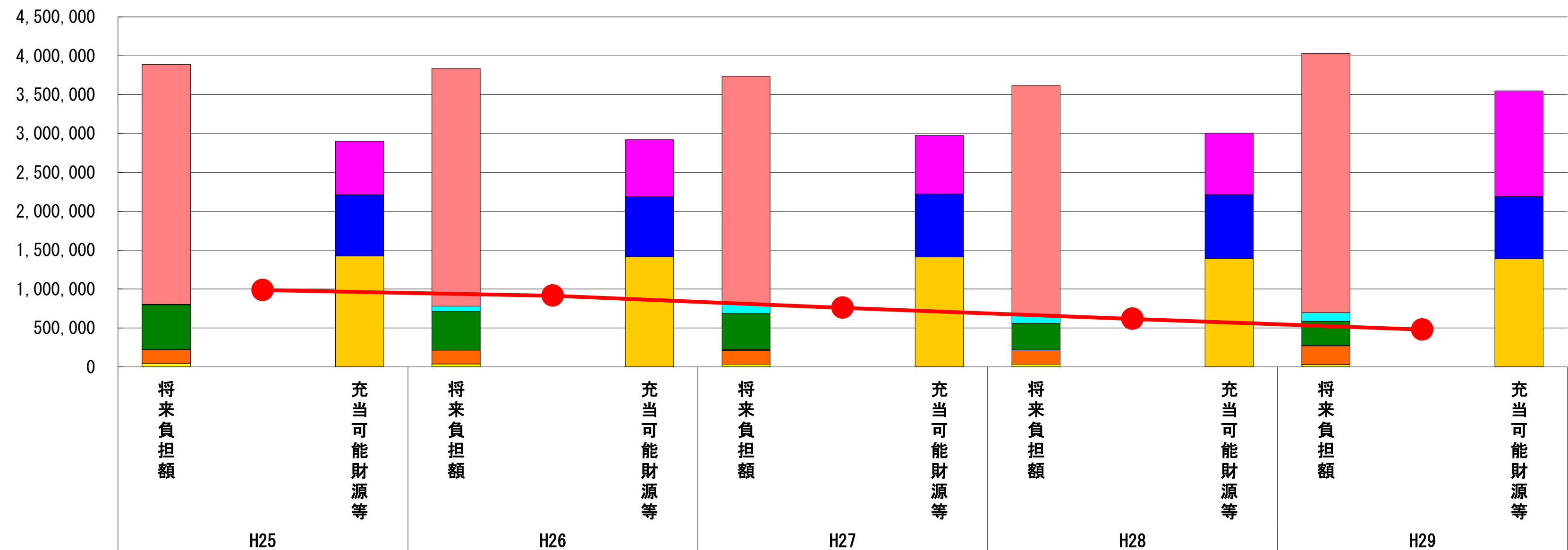
※平成30年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

(10) 将来負担比率（分子）の構造（市町村）

平成29年度

大阪府大阪市

（百万円）



（百万円）

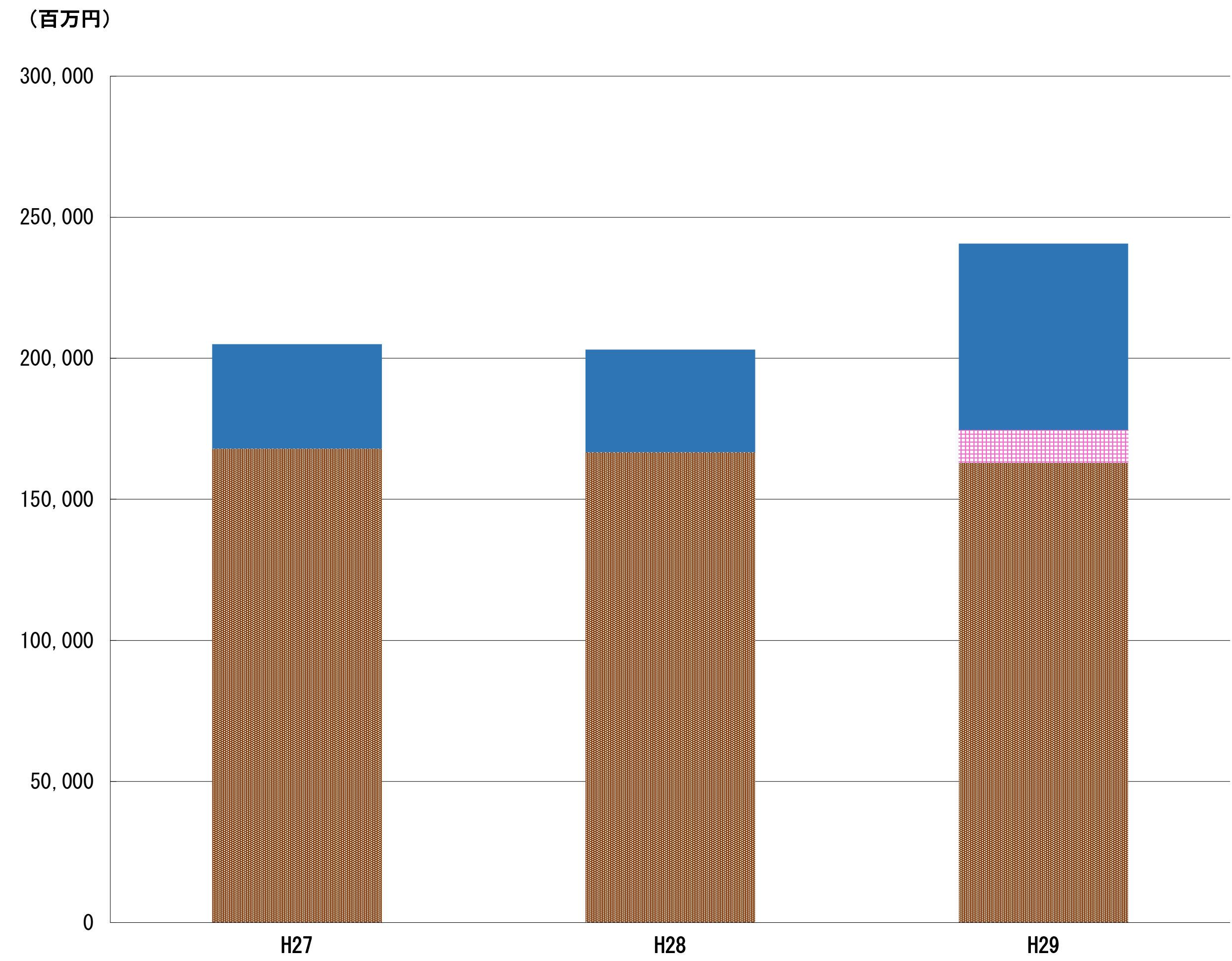
分子の構造		年度	H25	H26	H27	H28	H29
将来負担額 (A)	一般会計等に係る地方債の現在高		3,084,296	3,056,138	2,924,643	2,943,610	3,330,875
	債務負担行為に基づく支出予定額		7,170	65,361	125,185	117,430	109,016
	公営企業債等繰入見込額		572,134	499,277	464,316	343,540	308,633
	組合等負担等見込額		—	—	11,919	10,537	9,344
	退職手当負担見込額		182,862	178,100	175,463	173,475	238,982
	設立法人等の負債額等負担見込額		42,726	37,382	35,032	33,146	31,652
	うち、健全化法施行規則附則第三条に係る負担見込額		—	—	—	—	—
	連結実質赤字額		—	—	—	—	—
充当可能財源等 (B)	組合等連結実質赤字額負担見込額		—	—	—	—	—
	充当可能基金		689,906	733,418	753,843	789,994	1,357,768
	充当可能特定歳入		786,637	771,342	809,547	823,324	802,848
(A)－(B)	基準財政需要額算入見込額		1,425,088	1,416,002	1,413,022	1,391,907	1,388,561
	将来負担比率の分子		987,558	915,495	760,145	616,512	479,324

分析欄

将来負担比率の分子が減少している要因は、地方債の発行を抑制したことに伴い地方債残高が減少したことなど、この間の市政改革の取組によるものであり、毎年度着実に減少している。
今後も引き続き市債残高の縮減に努めるなど財政の健全化を進める。

※平成30年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく将来負担比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

(11) 基金残高（東日本大震災分を含む）に係る経年分析（市町村）



区分		年度	H27	H28	H29
	財政調整基金		167,945	166,643	163,020
	減債基金		－	－	11,592
	その他特定目的基金		37,053	36,389	66,041
	教育振興基金		13,565	13,569	22,582
	交通政策基金		－	－	20,850
	都市整備事業基金		9,213	8,493	8,091
	土地区画整理事業基金		2,225	2,368	2,501
	地域活性化事業基金		1,972	1,964	1,867
基金残高合計			204,998	203,032	240,654

平成29年度	大阪府大阪市
基金全体 (増減理由) 昨年度から37,622百万円の増となっているが、その主な要因は ・交通事業民営化に伴う積立による増（交通政策基金+20,850百万円、減債基金+11,592百万円） ・児童生徒急増対策等への対応に伴う積立による増（教育振興基金+9,013百万円） 等となっている。 (今後の方針) 以下各基金の方針のとおり	
財政調整基金 (増減理由) 財産売却代など（2,915百万円）を積立てたものの、弁天町駅前開発土地信託事業に係る和解金の財源として6,516百万円を活用したことなどにより、△3,623百万円の減となっている。 (今後の方針) 弁天町駅前開発土地信託事業にかかる和解金分への充当（取崩）を予定している。（2018～2023 38,400百万円） そのほか、不況による税収の落ち込みにより財源が不足する場合や、災害発生による予期しない経費に備える。	
減債基金 (増減理由) 交通事業民営化に伴う市債の繰上償還（平成30年度）に対応するために積み立てたことにより皆増となっている (今後の方針) 交通事業民営化に伴う市債の繰上償還に対応するため、平成30年度に全額取崩を行う予定である。	
その他特定目的基金 (基金の使途) 教育振興基金：学校教育及び社会教育の振興を図る事業の資金に充てる 交通政策基金：本市における交通政策の推進を図る資金に充てる 都市整備事業基金：本市における都市施設の整備を目的とする事業を促進する経費に充てる 土地区画整理事業基金：土地区画整理事業の各施工地区における事業の施工の費用、土地区画整理法第110条第1項の規定による清算金の交付に要する費用及び、清算金の交付のために起こした本市公債の償還の財源に充てる 地域活性化事業基金：モーターボート競走に係る勝舟投票券の場外発売場の所在地に属する区における地域の活性化を目的とする事業の推進を図る資金に充てる (増減理由) 交通事業の民営化に伴う高速鉄道事業会計からの繰入金を交通政策基金に積み立てた（20,850百万円）ほか、児童生徒急増対策等への対応（平成30年度～平成37年度）として教育振興基金へ積み立てた（9,009百万円）ことなどにより、その他特定目的基金全体で29,652百万円の増となっている。 (今後の方針) 条例で定める各基金の目的に応じ、積立取崩を行う。	

(12)市町村公会計指標分析／財政指標組合せ分析表

平成29年度

大阪府大阪市

人	口	2,702,432	人(H30.1.1現在)	実	質	赤	字	比	率	-	%						
うち日本人		2,570,850	人(H30.1.1現在)	連	結	実	質	赤	字	比	率	-	%				
面積	積	225.21	km ²	実	質	公	債	費	比	率	5.7	%					
歳入総額	額	1,742,817,144	千円	将	来	負	担	比	率	65.2	%						
歳出総額	額	1,740,813,287	千円	市	町	村	類	型		H25	政令市	H26	政令市	H27	政令市		
実質収支	支	419,812	千円	(	年	度	毎	)		H28	政令市	H29	政令市				
標準財政規模	模	848,686,770	千円														
地方債現在高	高	2,069,776,835	千円														

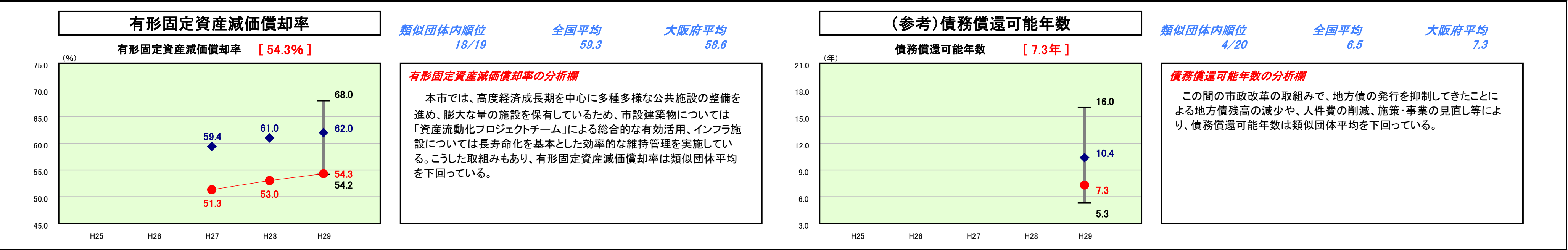
- 当該団体値
- 類似団体内平均値
- 類似団体内の
最大値及び最小値

※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。

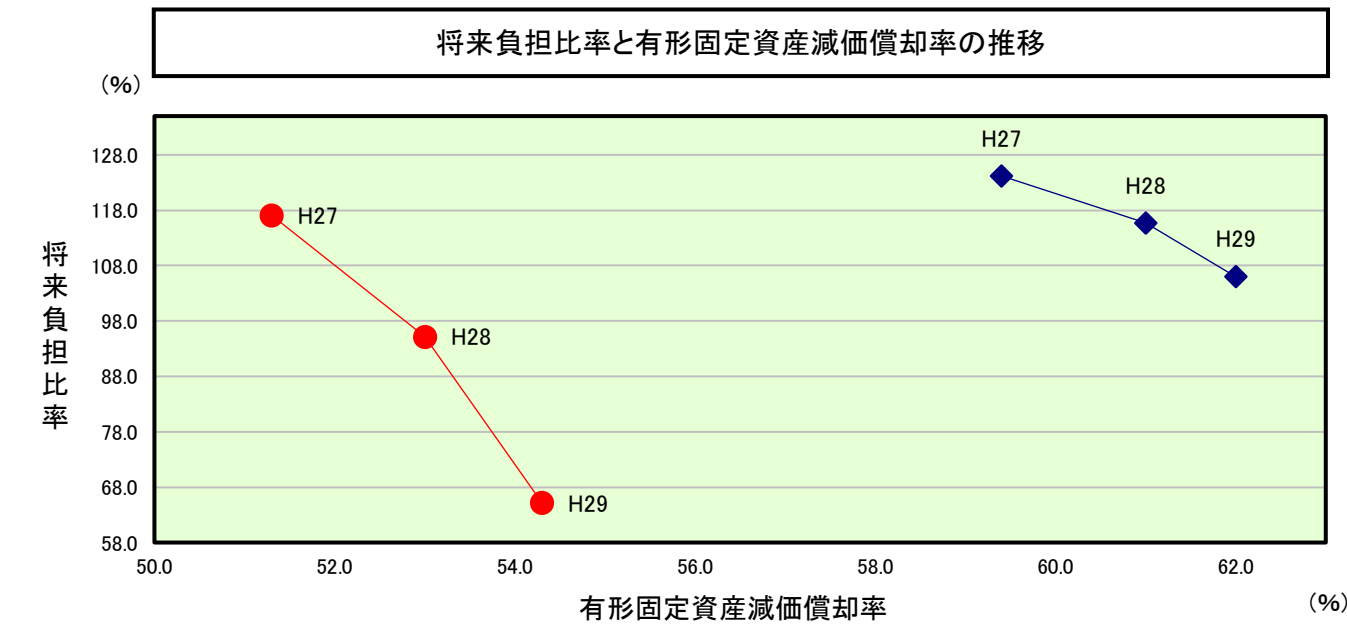
※ 住民基本台帳人口については、住民基本台帳関係年報の調査基準日変更に伴い、平成25年度以降、調査年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口を記載。

※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、平成29年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。

※ 平成30年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体毎の決算に基づく健全化判断比率等を算出していない団体については、債務償還可能年数、実質公債費率、将来負担比率のグラフを表記しない。



将来負担比率及び有形固定資産減価償却率の組合せによる分析



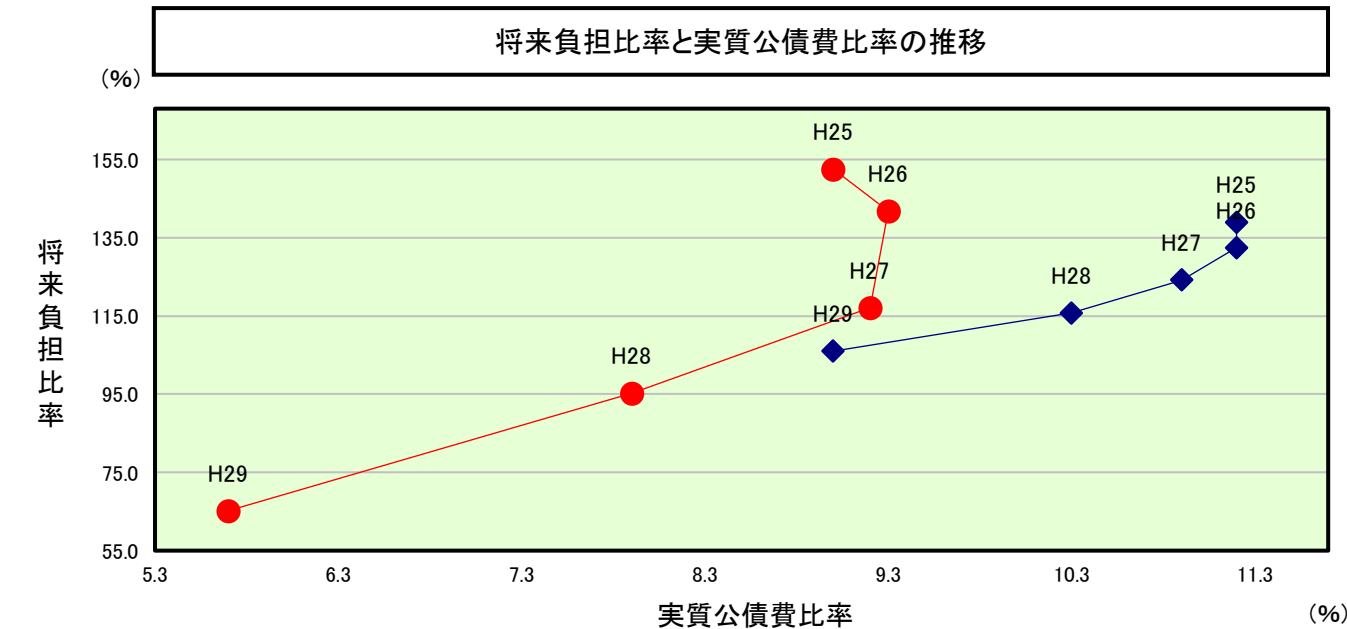
分析欄

この間の市政改革の取組で、地方債の発行を抑制してきたことにより地方債残高が減少したことが主な要因で、将来負担比率は毎年度着実に改善しており、引き続き類似団体平均を下回っている。また、本市では、高度経済成長期を中心に多種多様な公共施設の整備を進め、膨大な量の施設を保有しているため、市設建築物については「資産流動化プロジェクトチーム」による総合的な有効活用、インフラ施設については長寿命化を基本とした効率的な維持管理を実施している。こうした取組みもあり、有形固定資産減価償却率は類似団体平均を下回っている。

(参考)

		H25	H26	H27	H28	H29
当該団体値	将来負担比率			117.1	95.2	65.2
	有形固定資産減価償却率			51.3	53.0	54.3
類似団体内平均値	将来負担比率			124.2	115.7	106.0
	有形固定資産減価償却率			59.4	61.0	62.0

将来負担比率及び実質公債費比率の組合せによる分析



分析欄

この間の市政改革の取組で、地方債の発行を抑制してきたことにより地方債残高が減少したことが主な要因で、将来負担比率及び実質公債費比率は毎年度着実に改善しており、引き続き類似団体平均を下回っている。今後も引き続き市債残高の縮減に努めるなど公債費の抑制を図る。

(参考)

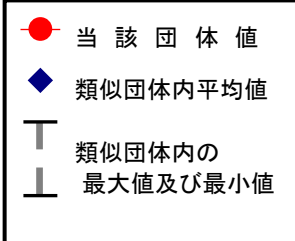
		H25	H26	H27	H28	H29
当該団体値	将来負担比率	152.5	141.8	117.1	95.2	65.2
	実質公債費比率	9.0	9.3	9.2	7.9	5.7
類似団体内平均値	将来負担比率	139.0	132.4	124.2	115.7	106.0
	実質公債費比率	11.2	11.2	10.9	10.3	9.0

(13)-1市町村施設類型別ストック情報分析表①

平成29年度

大阪府大阪市

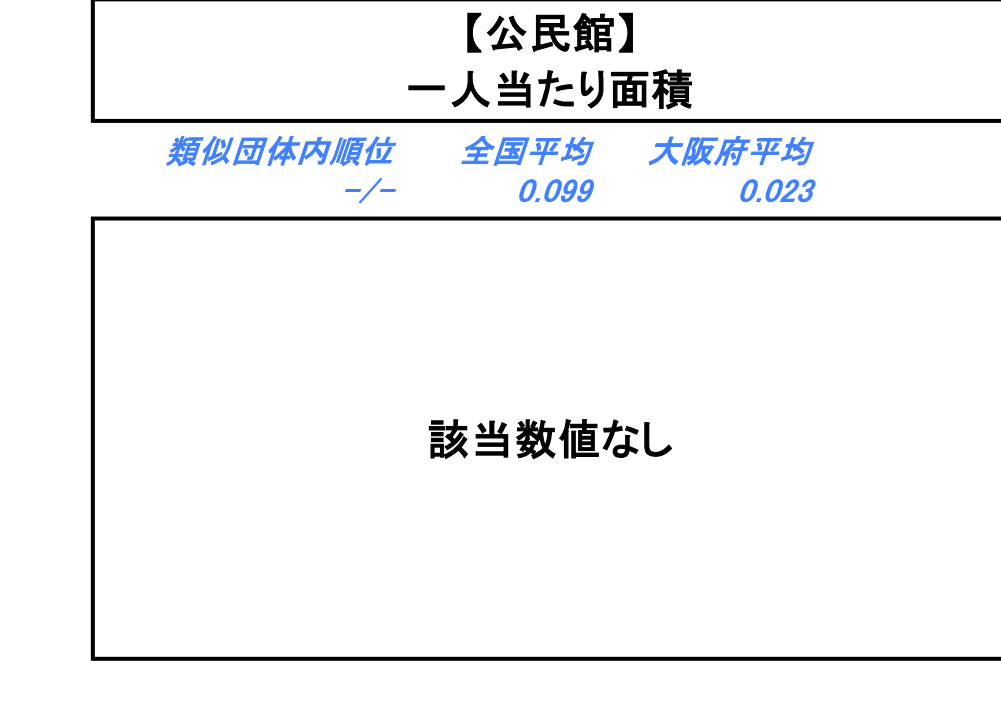
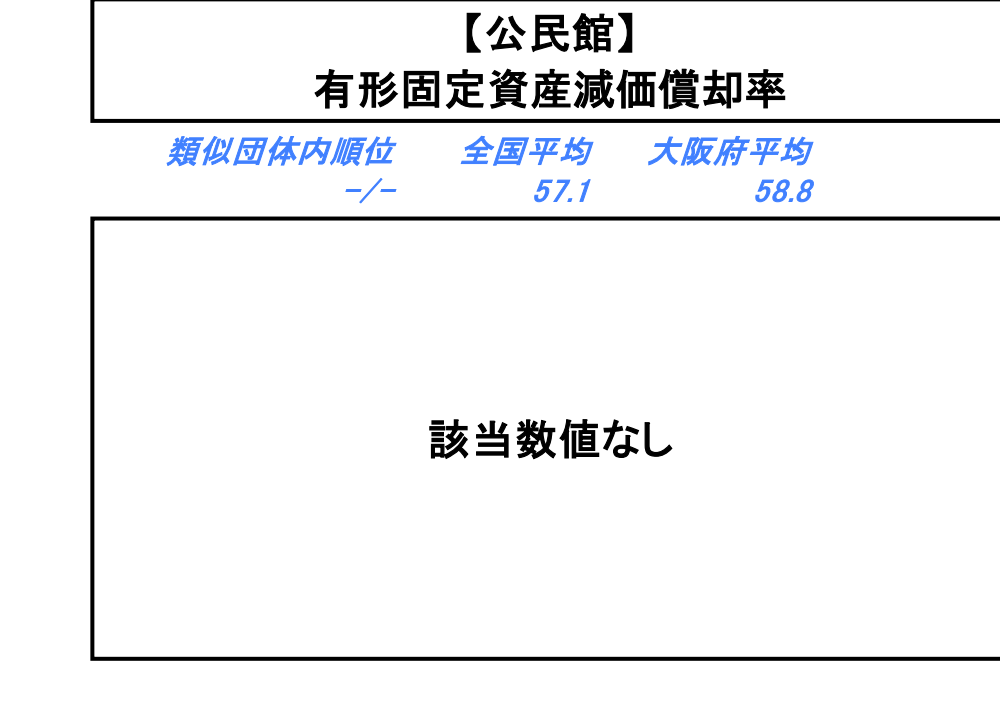
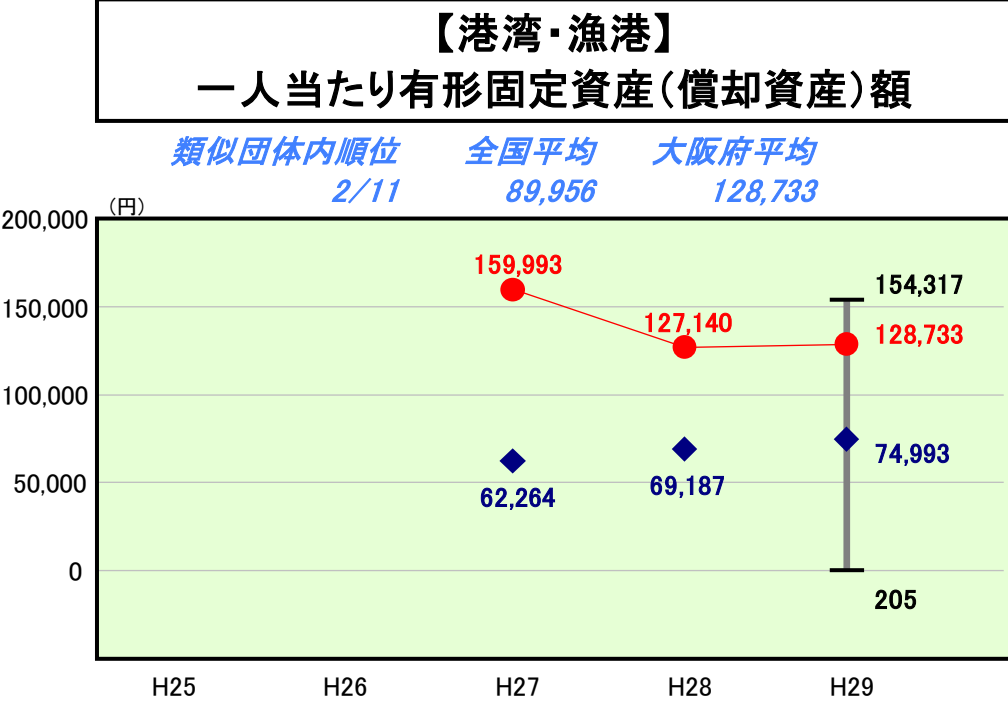
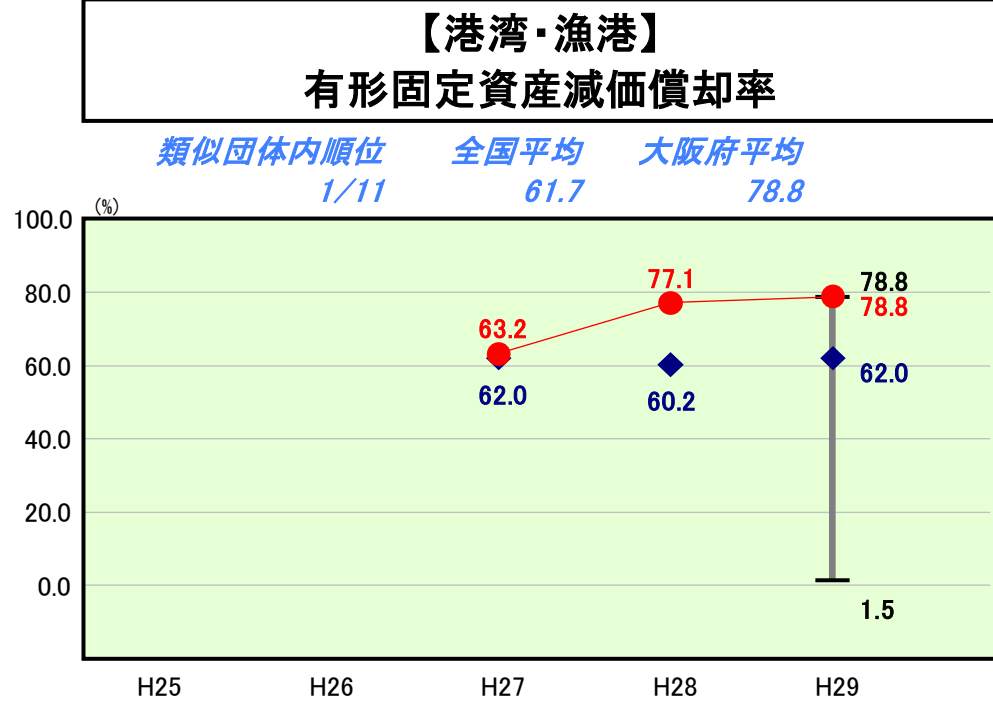
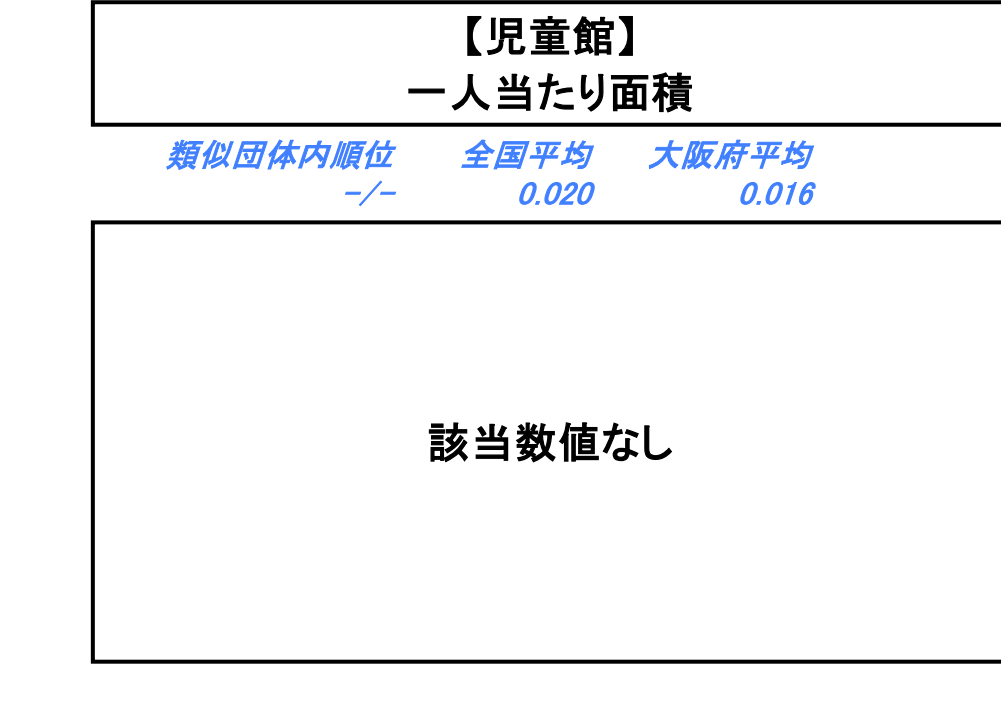
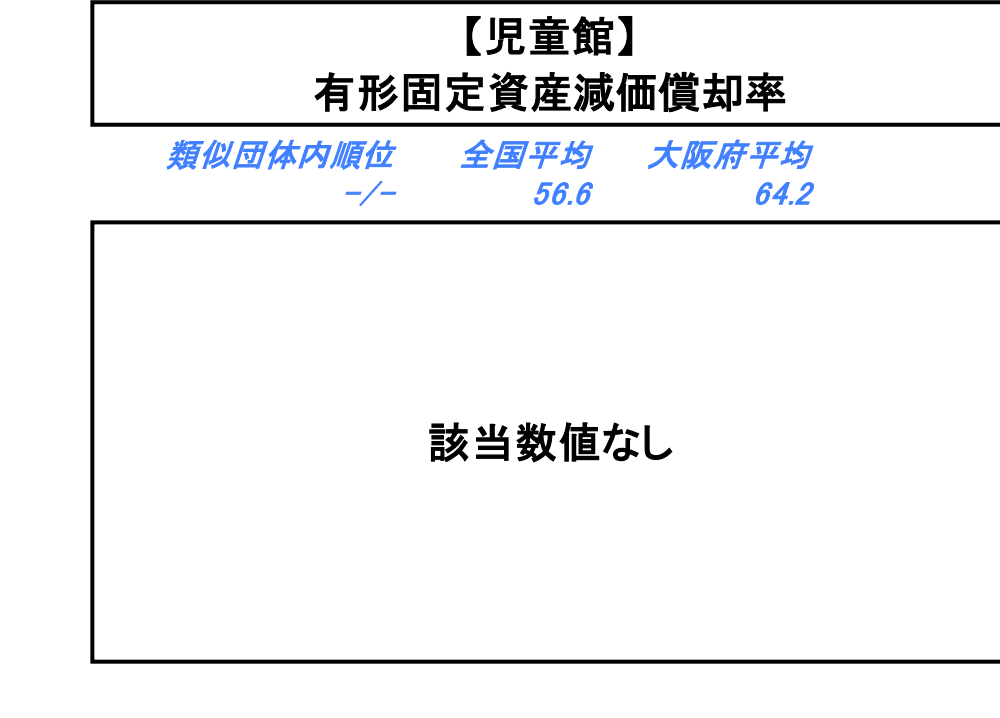
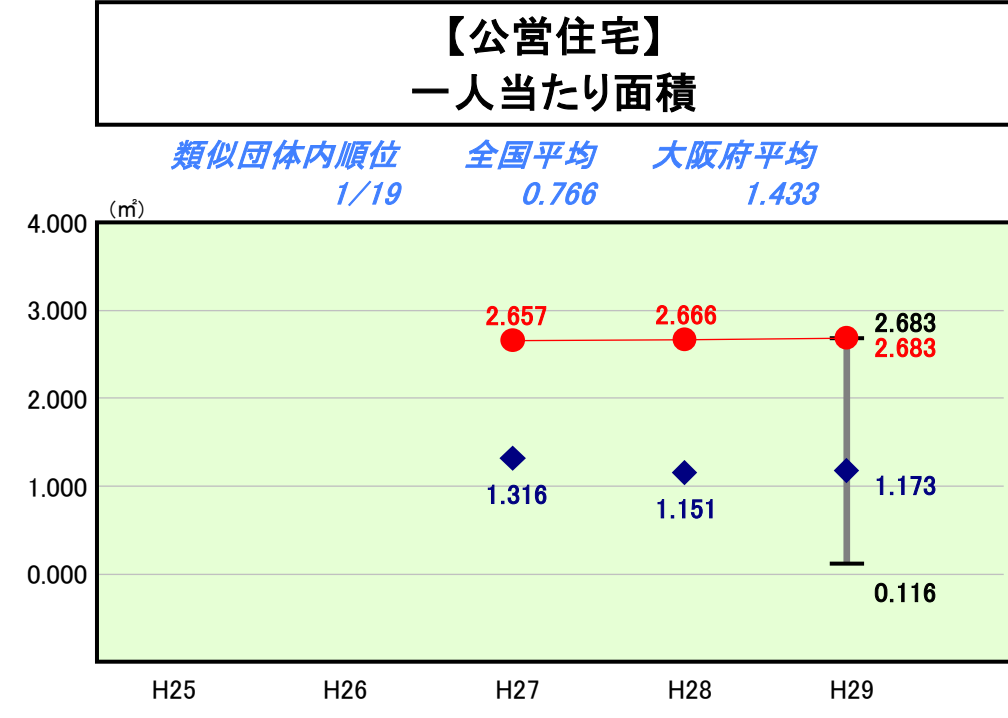
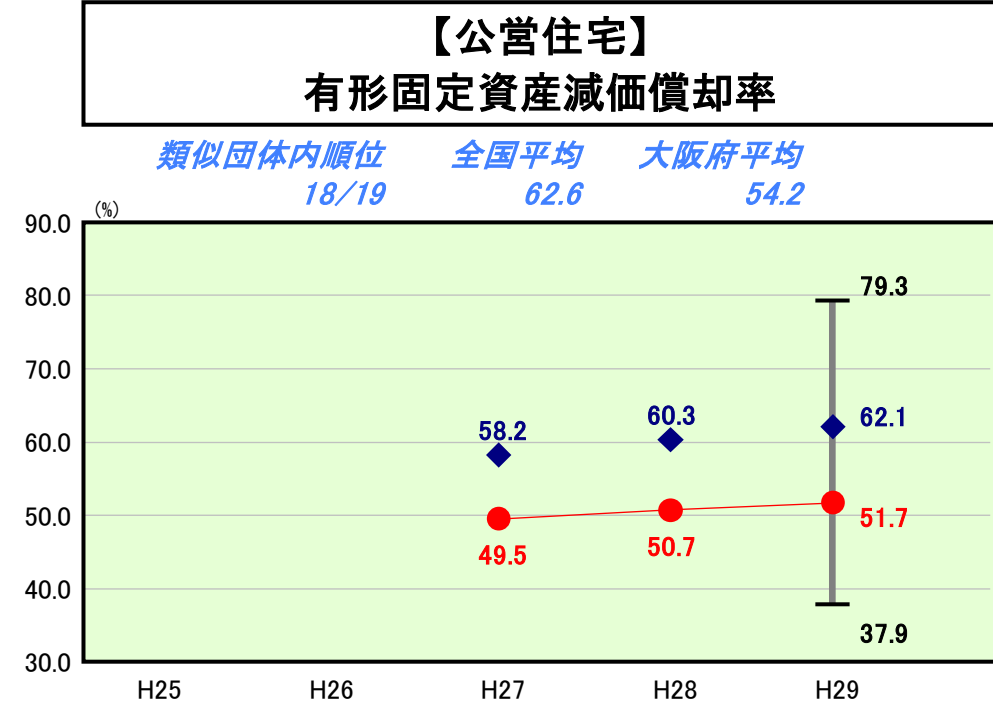
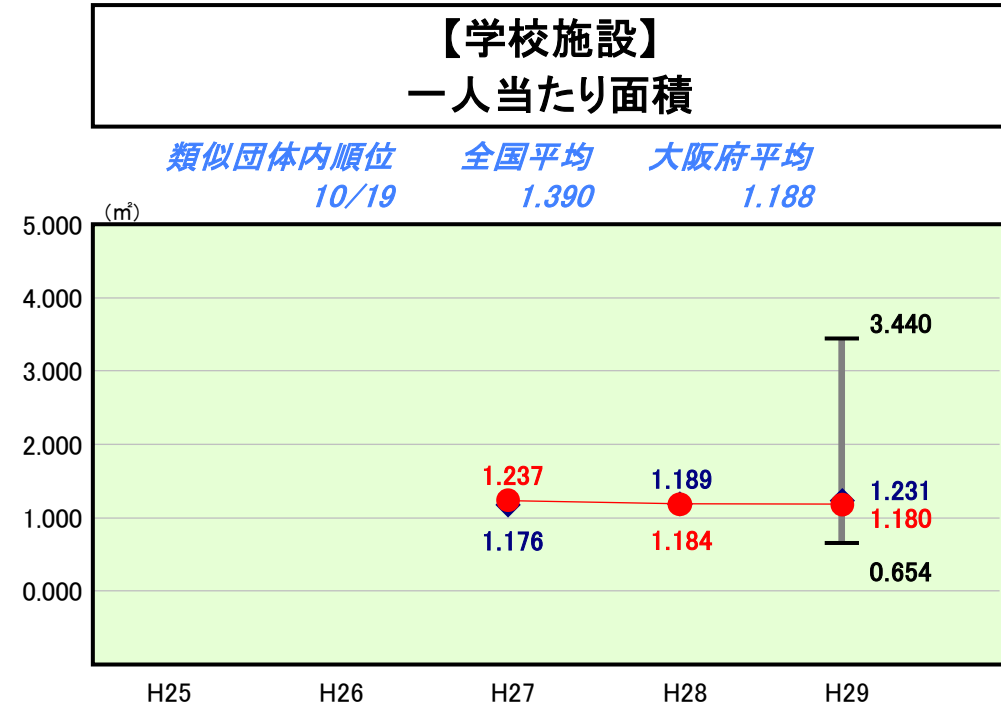
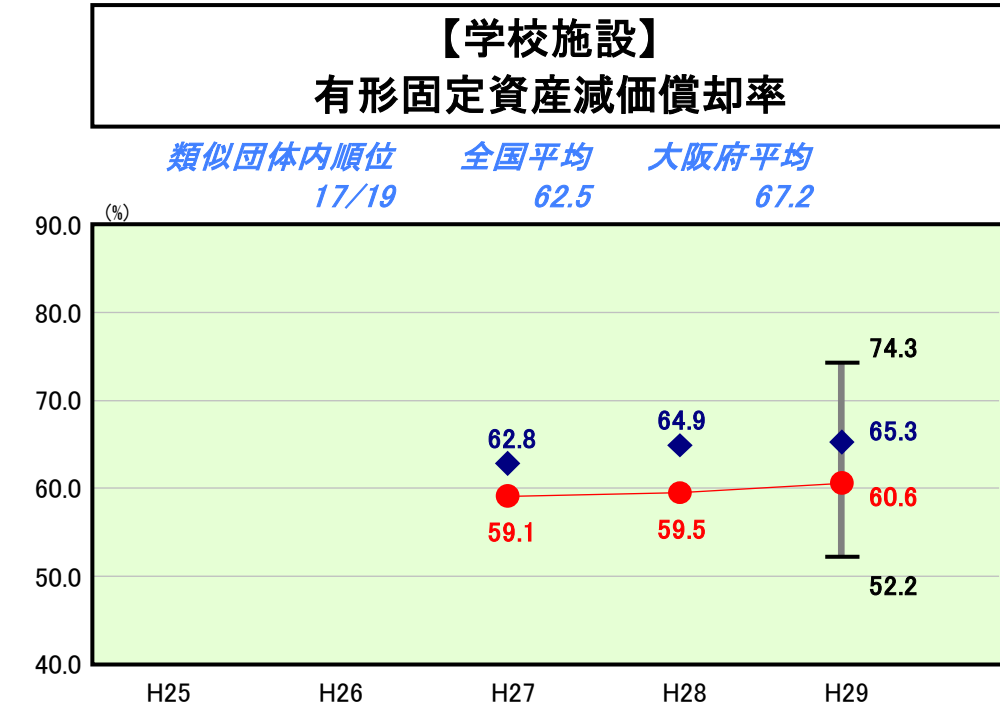
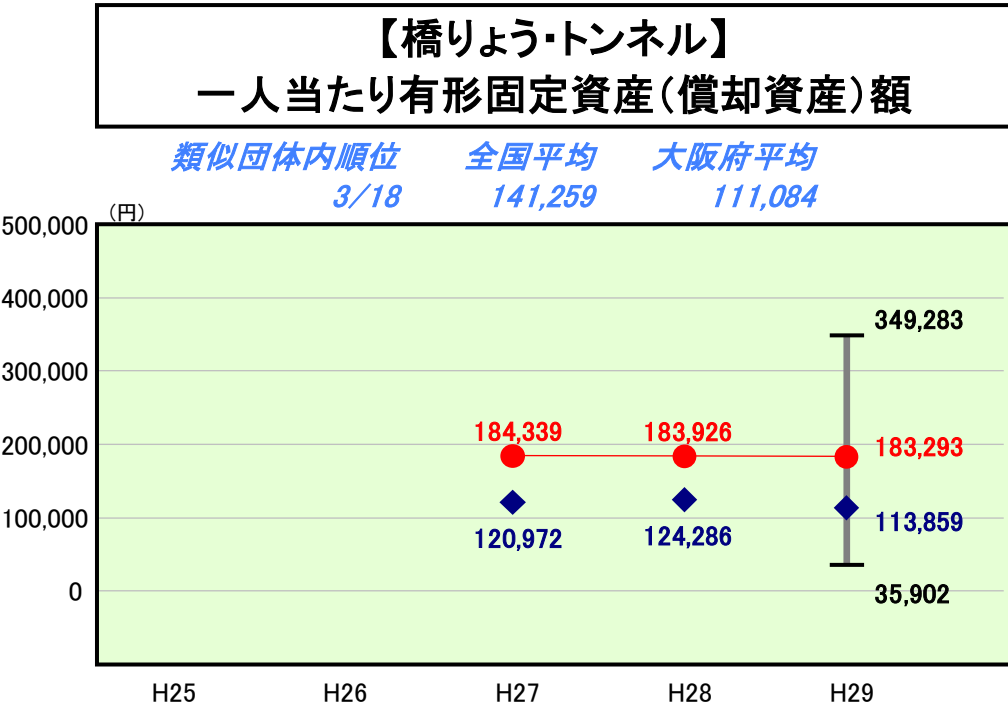
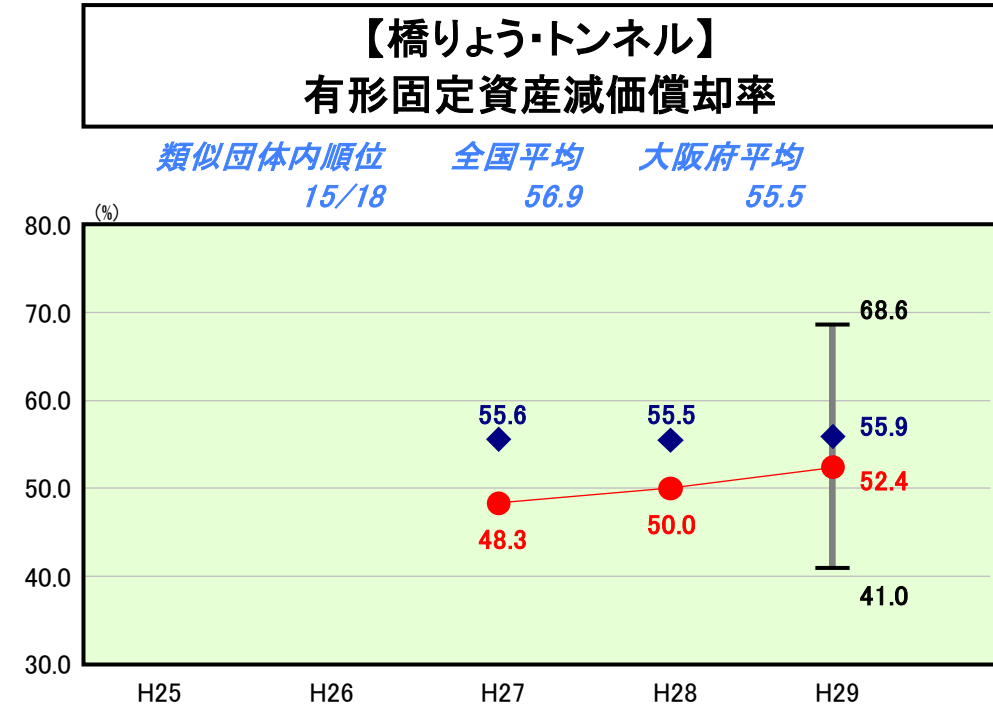
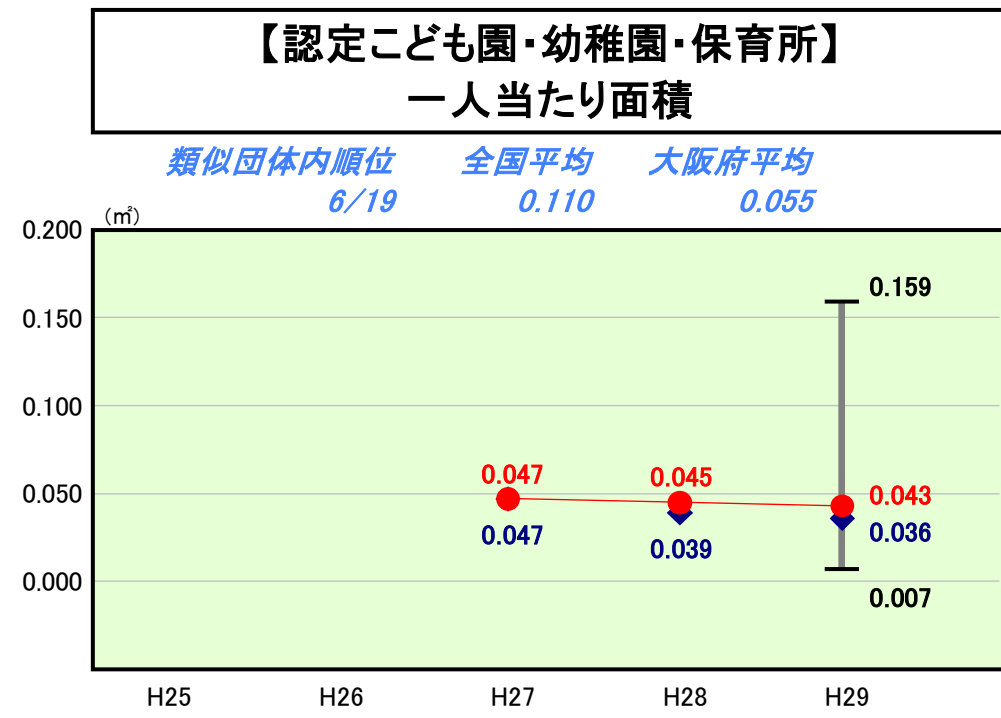
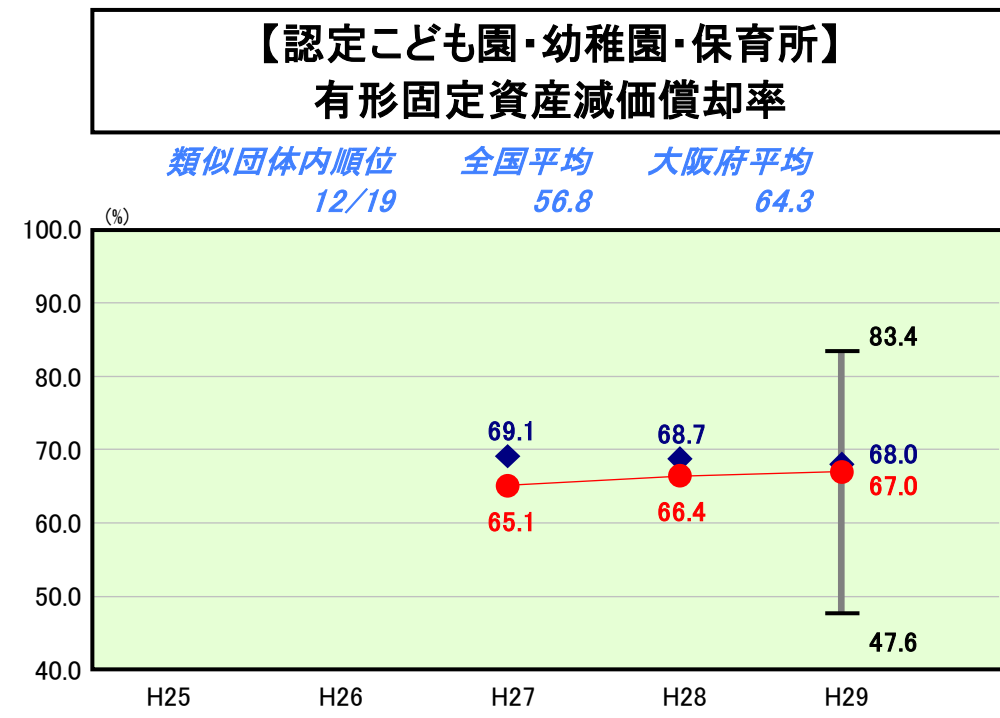
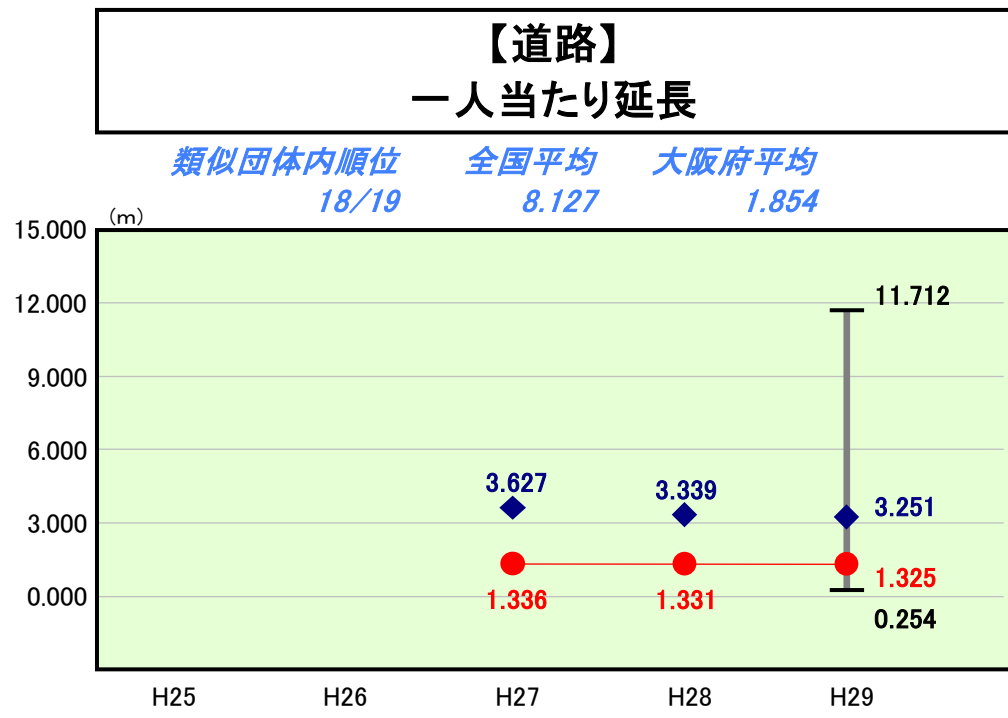
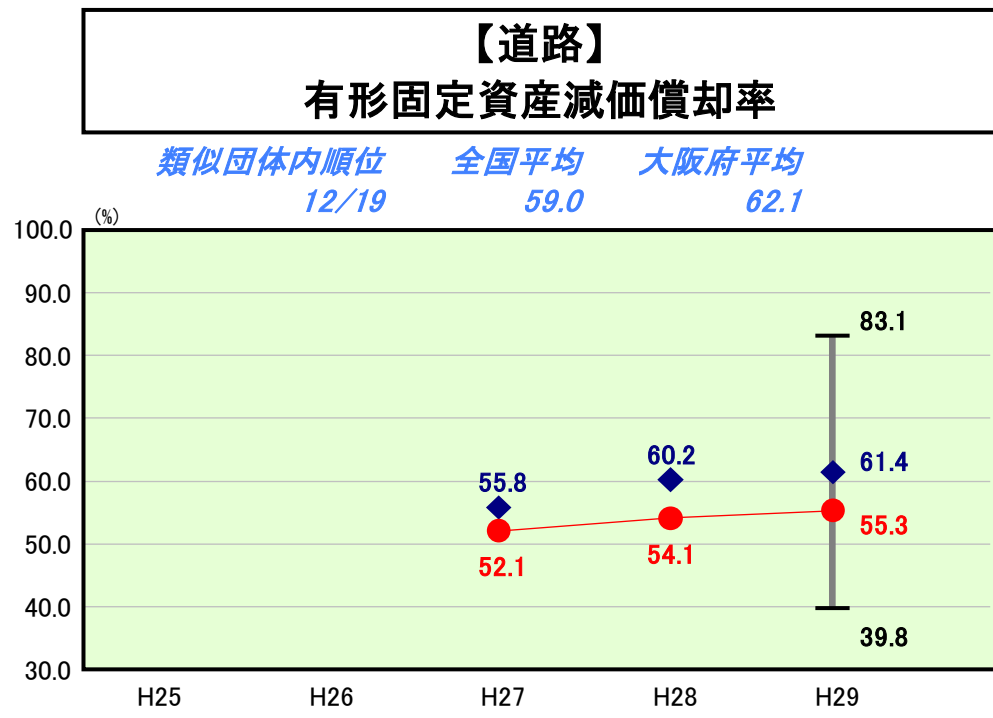
人	2,702,432	人(H30.1.1現在)	実	質	赤	字	比	率	-	%
うち日本人	2,570,850	人(H30.1.1現在)	実	結	実	質	赤	字	比	率
面積	225.21	k㎡	実	公	債	費	比	率	5.7	%
歳入総額	1,742,817,144	千円	将	来	負	担	比	率	65.2	%
歳出総額	1,740,813,287	千円	市	町	村	類	型		H25	政令市
実質収支	419,812	千円	(	年	度	毎	)		H28	政令市
標準財政規模	848,686,770	千円							H29	政令市
地方債現在高	2,069,776,835	千円							H27	政令市



※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。

※ 住民基本台帳人口については、住民基本台帳関係年報の調査基準日変更に伴い、平成25年度以降、調査年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口を記載。

※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、平成29年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。



施設情報の分析欄

本市では、高度経済成長期を中心に多種多様な公共施設の整備を進め、膨大な量の施設を保有しているため、市設建築物については「資産流動化プロジェクトチーム」による総合的な有効活用、インフラ施設については長寿命化を基本とした効率的な維持管理を実施している。こうした取組みもあり、有形固定資産減価償却率は類似団体平均を下回っている。

中でも、公営住宅については、「大阪市営住宅ストック総合活用計画」(当初策定：平成13年11月)に基づき、事業費・事業量の平準化を図りながら、公営住宅法上の耐用年限を超過しないよう計画的に建替事業を進めていることから、有形固定資産減価償却率が低くなっているものと考えられる。一方で、港湾施設については、老朽化が進み、供用年数が耐用年数を超える施設が約2割を占めていることから有形固定資産減価償却率が高くなっているが、これまでの取組みに加えて、「大阪港インフラ長寿命化計画」(平成29年7月策定)に基づき、効率的かつ効果的な維持管理を推進する。

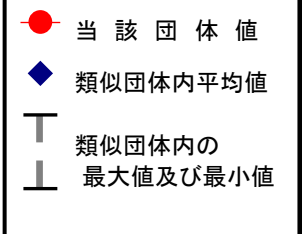
今後も市設建築物およびインフラ施設については、平成27年度に策定した「大阪市公共施設マネジメント基本方針」に沿って、規模の最適化、予防保全による長寿命化、多様なコスト縮減手法の導入に取り組む。

(13)-2市町村施設類型別ストック情報分析表②

平成29年度

大阪府大阪市

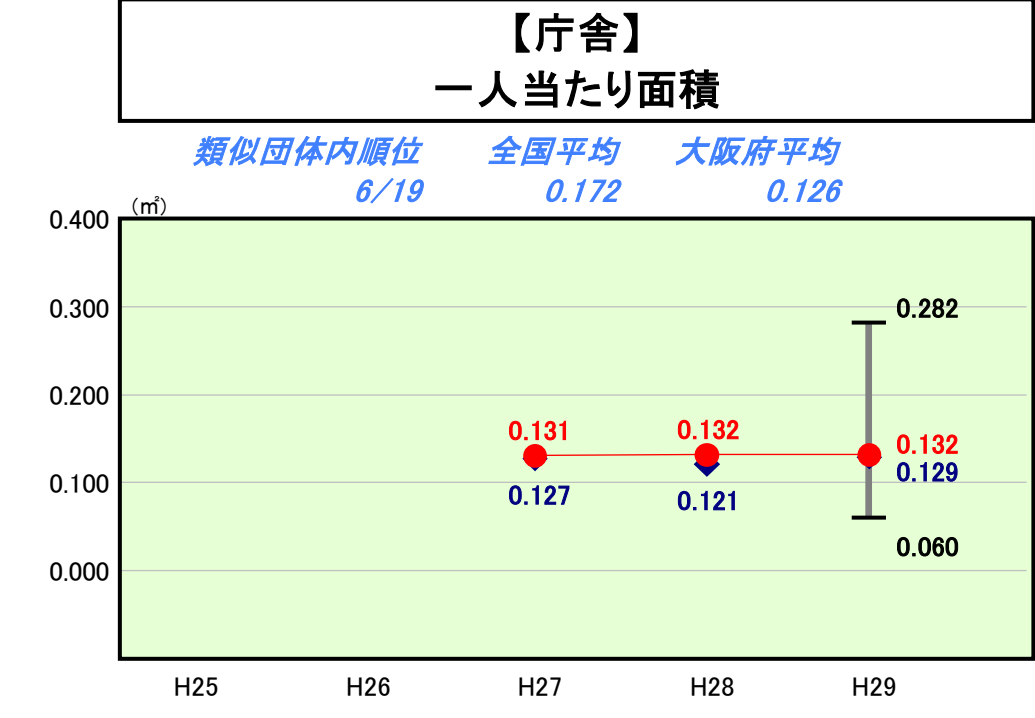
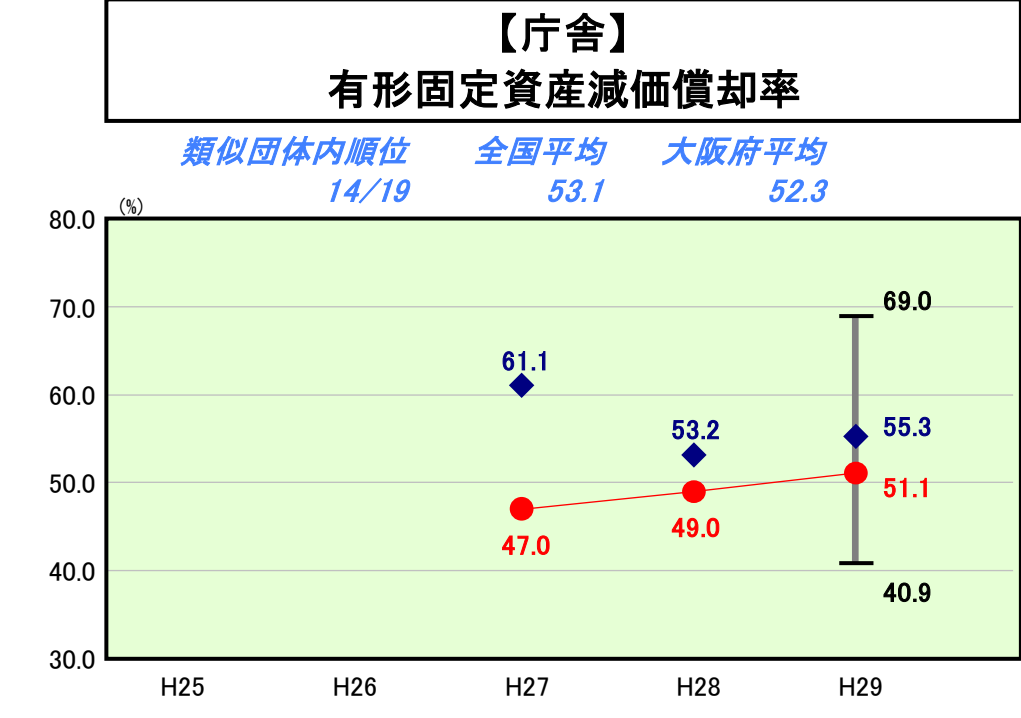
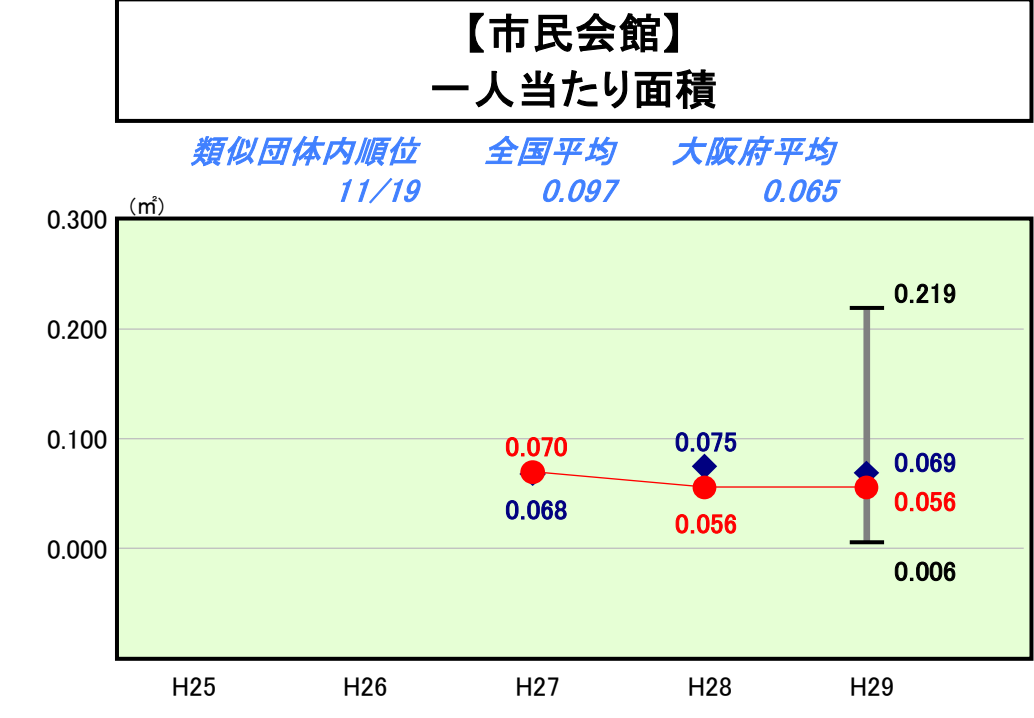
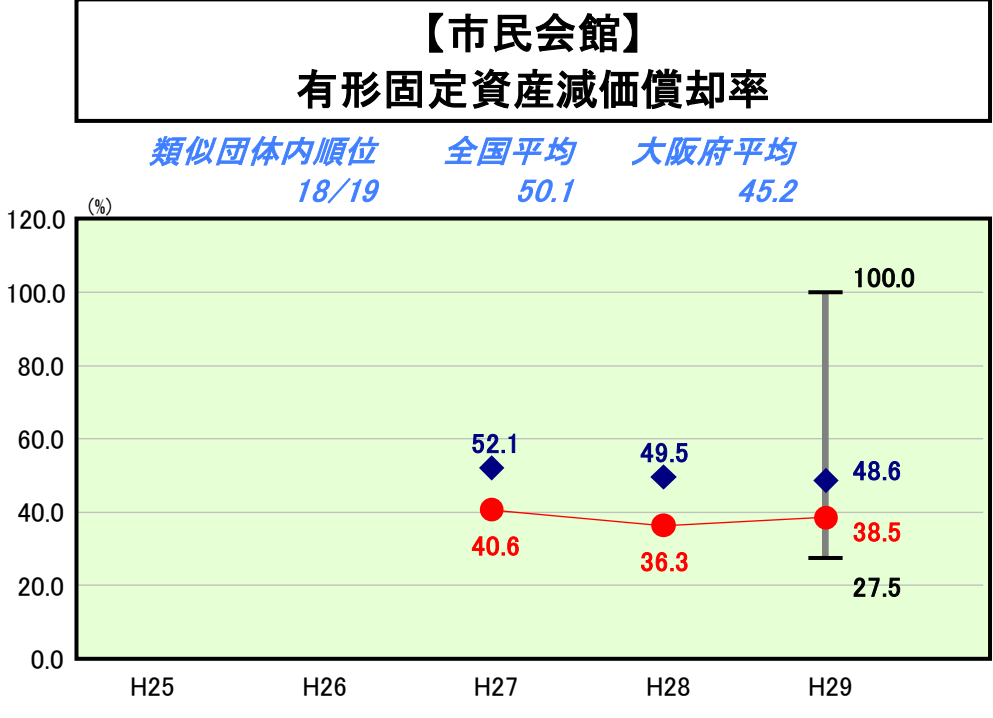
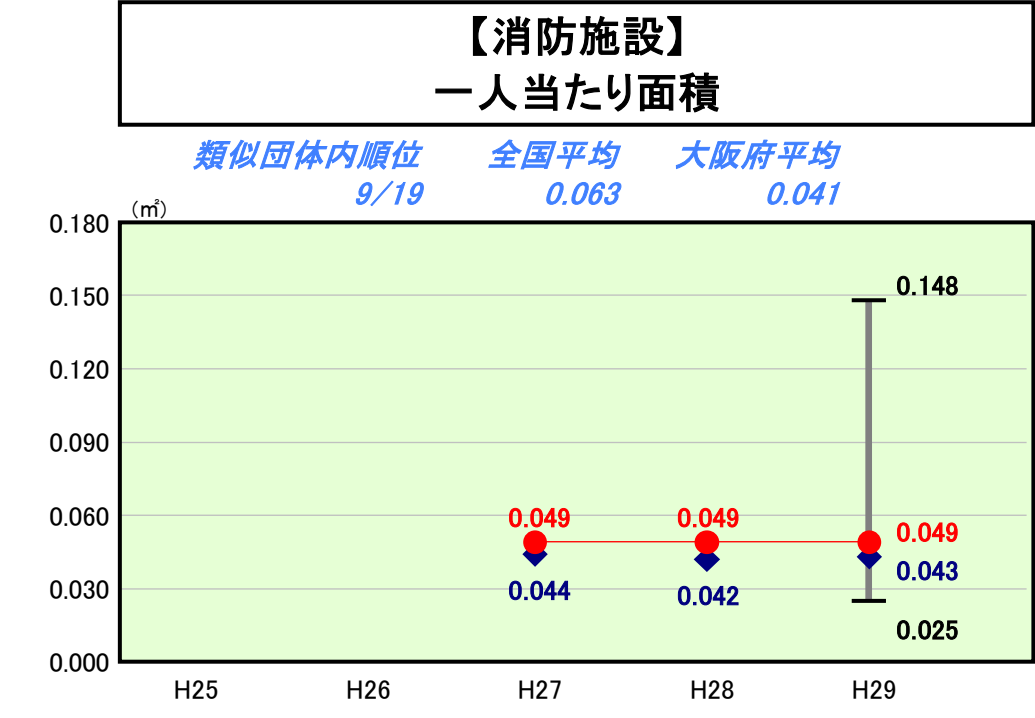
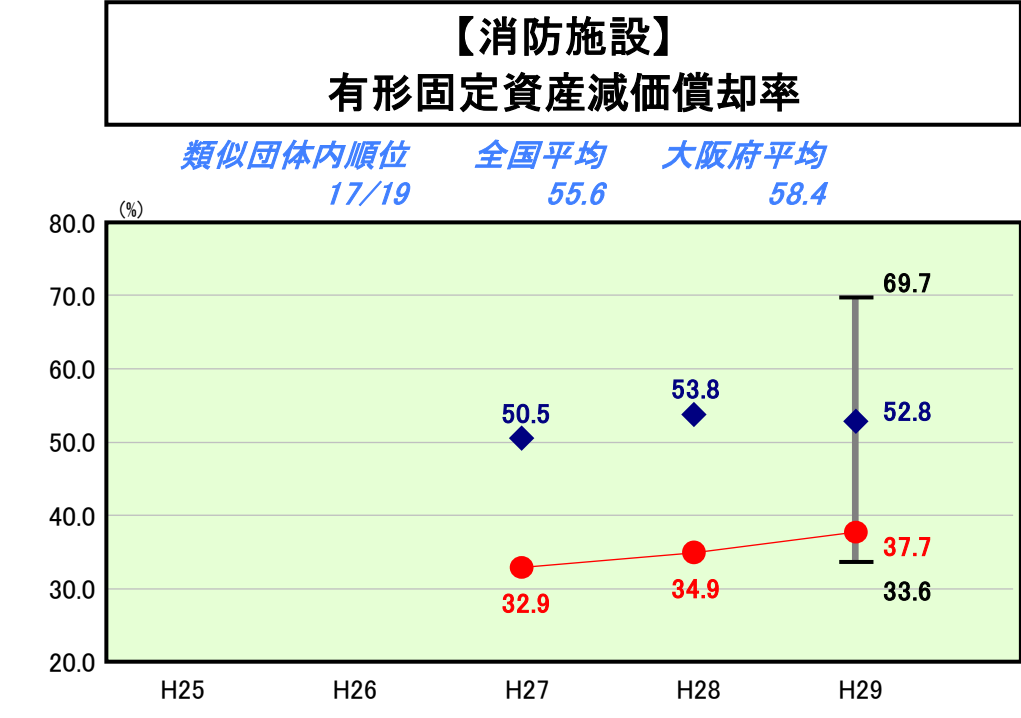
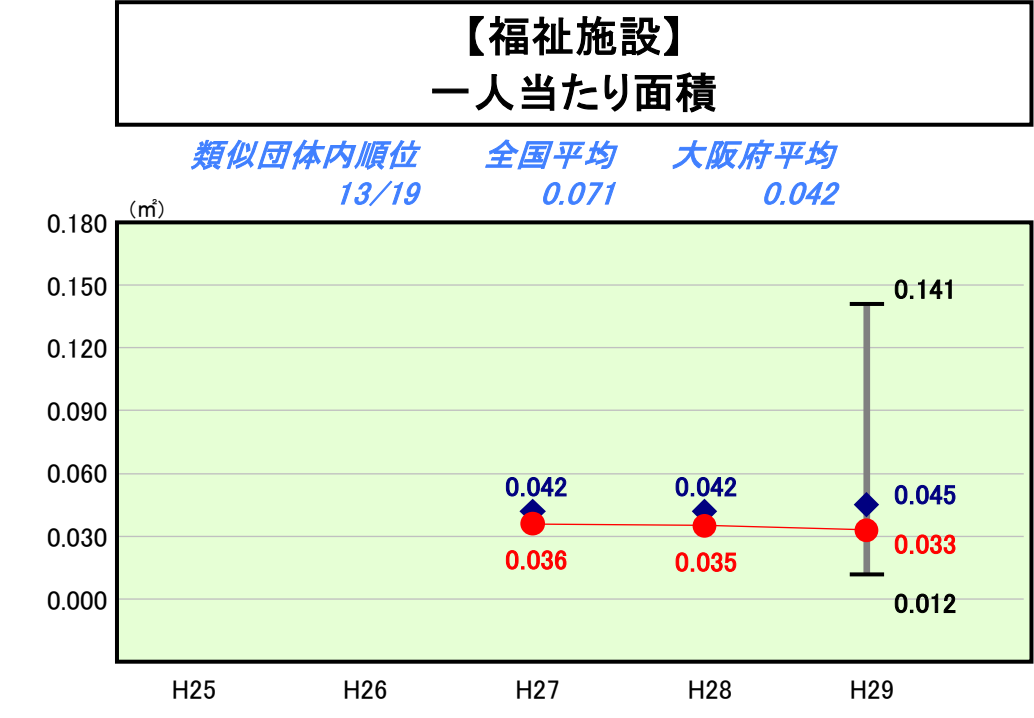
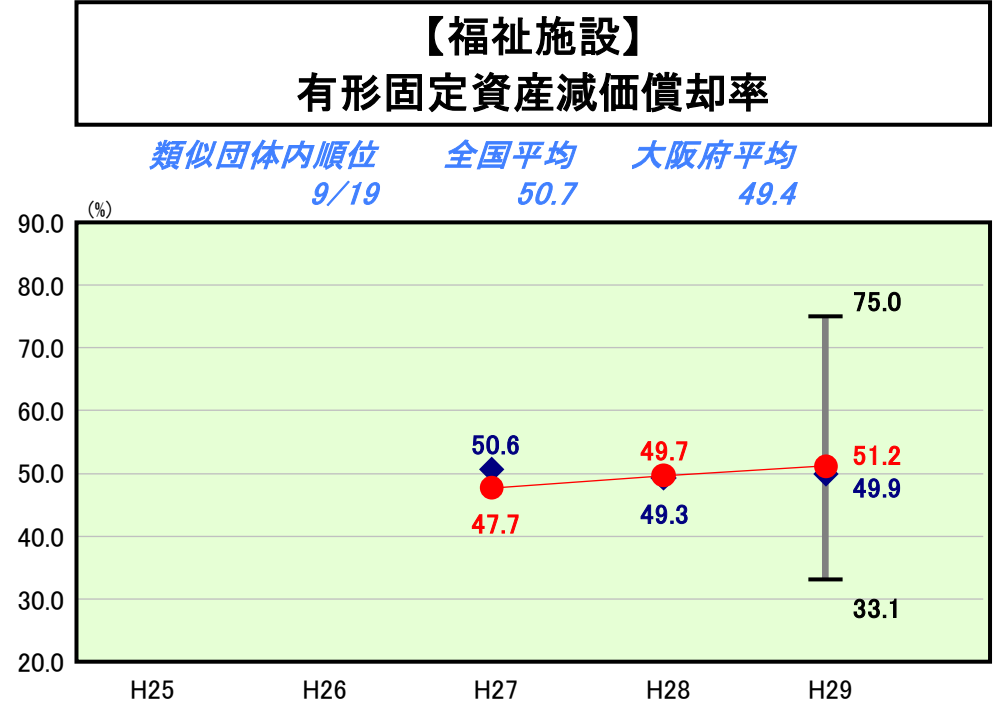
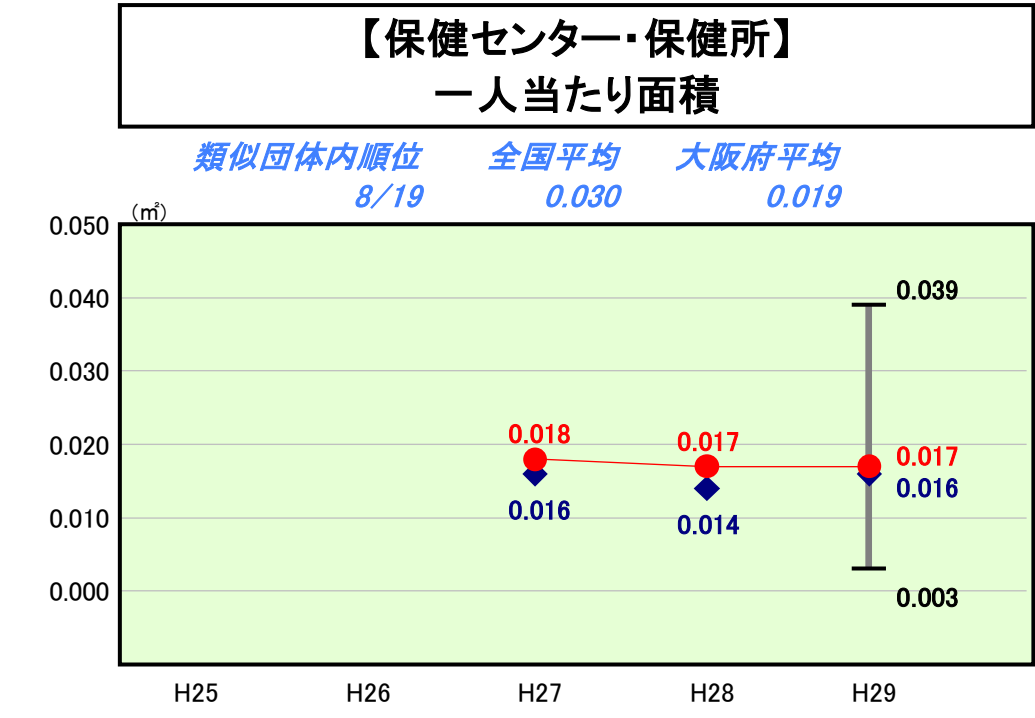
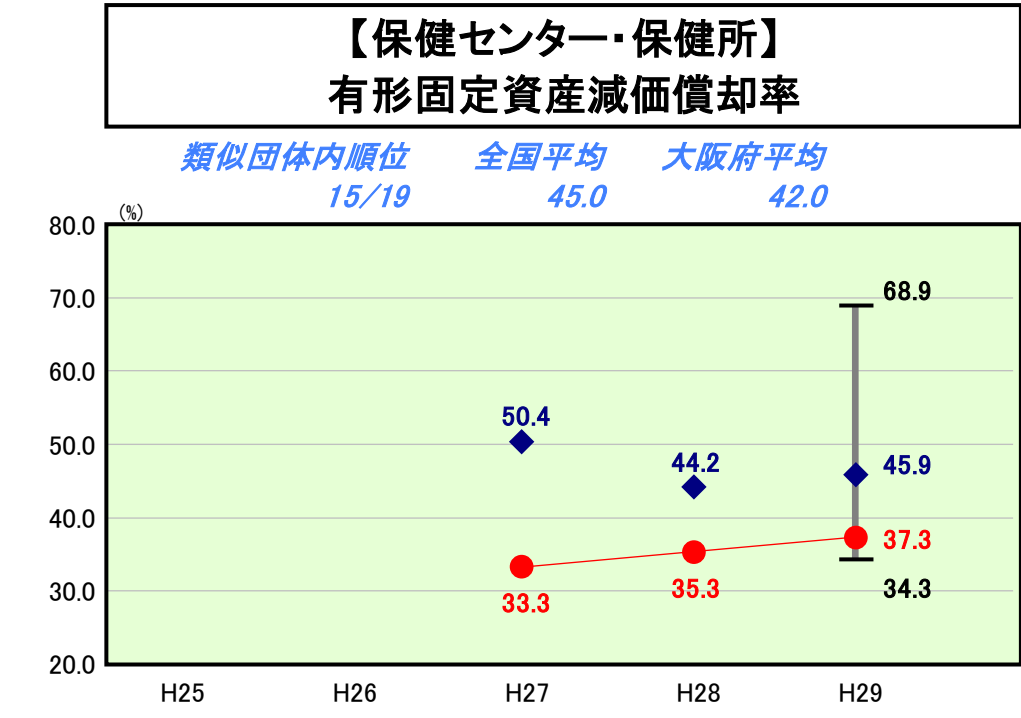
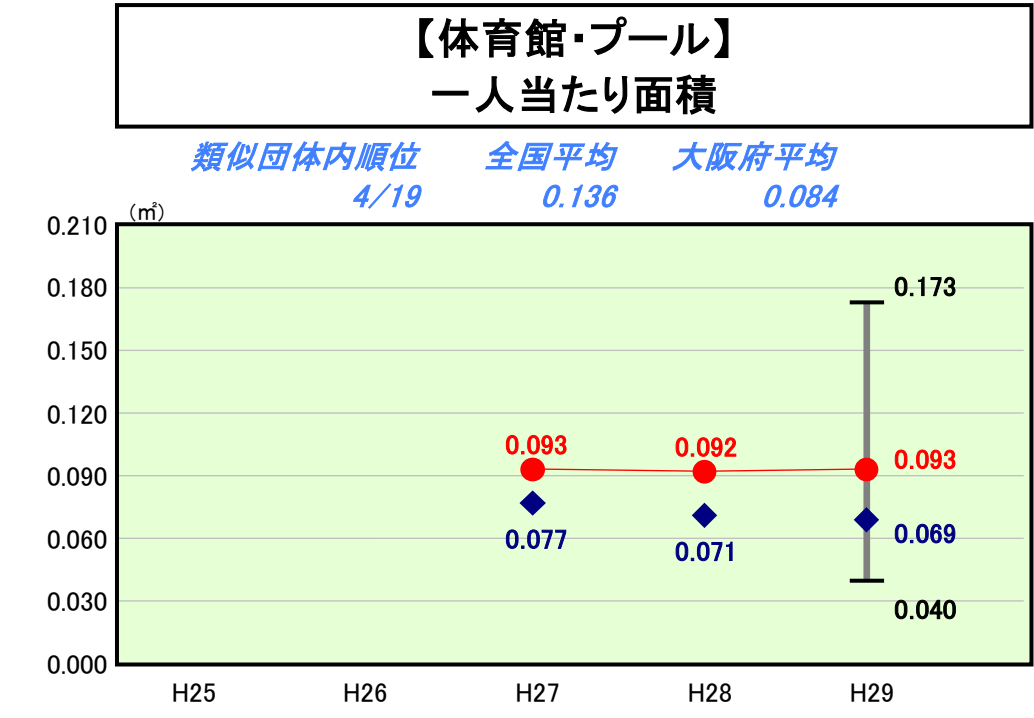
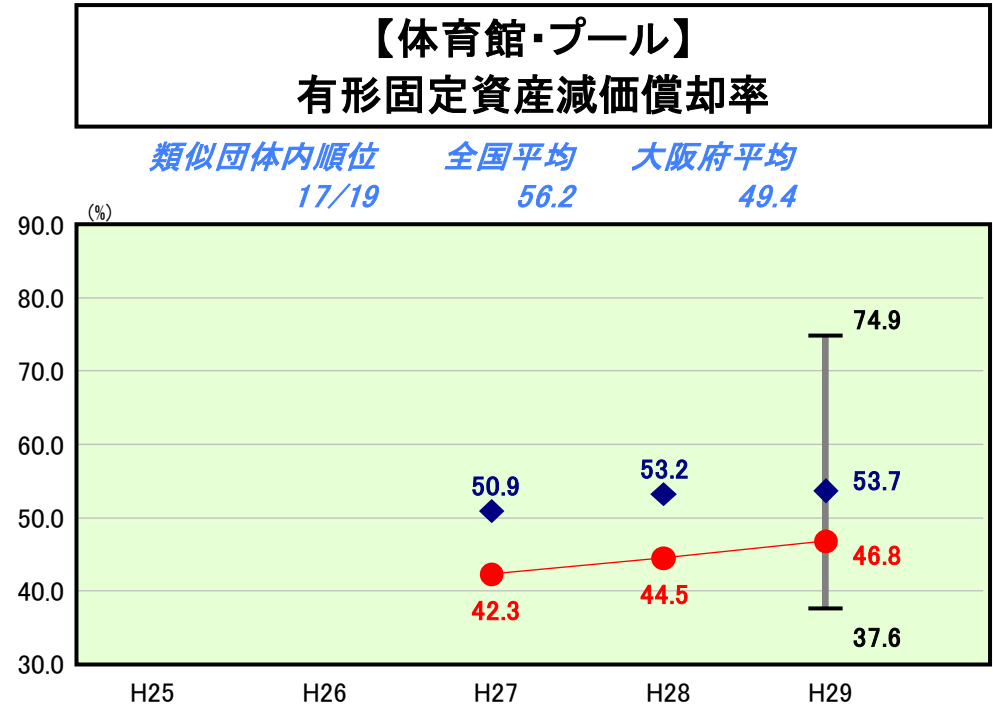
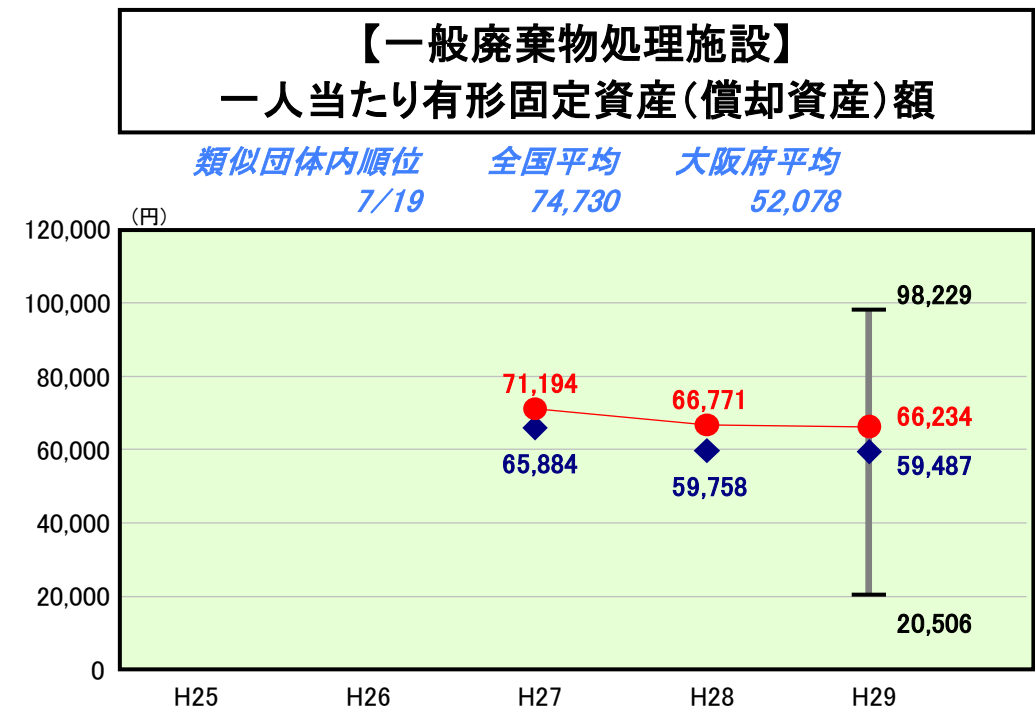
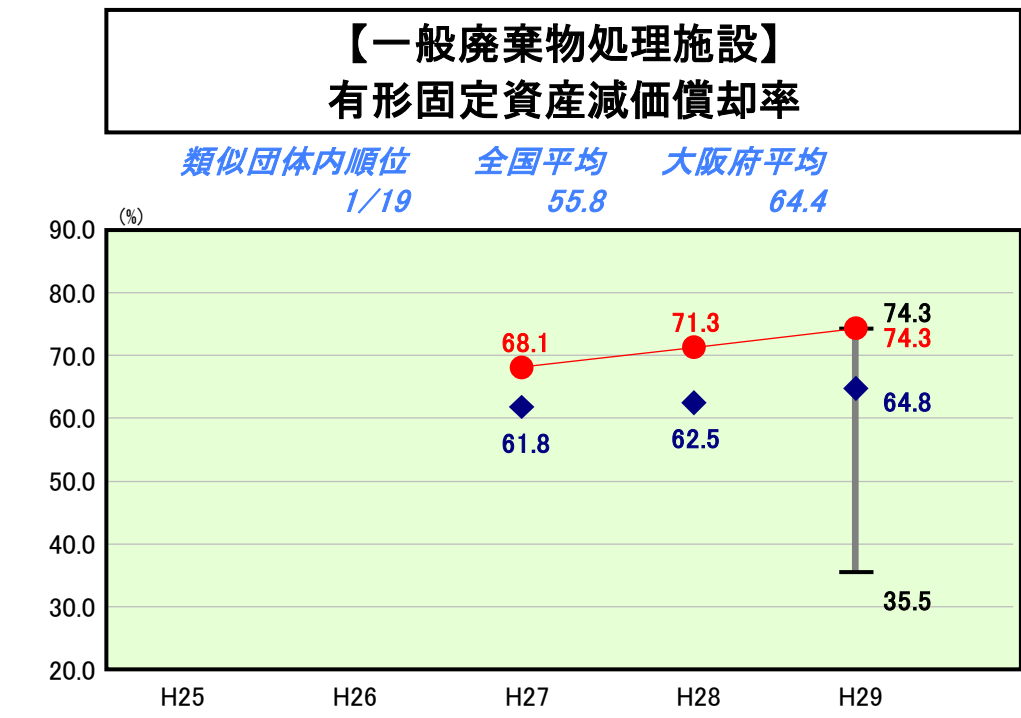
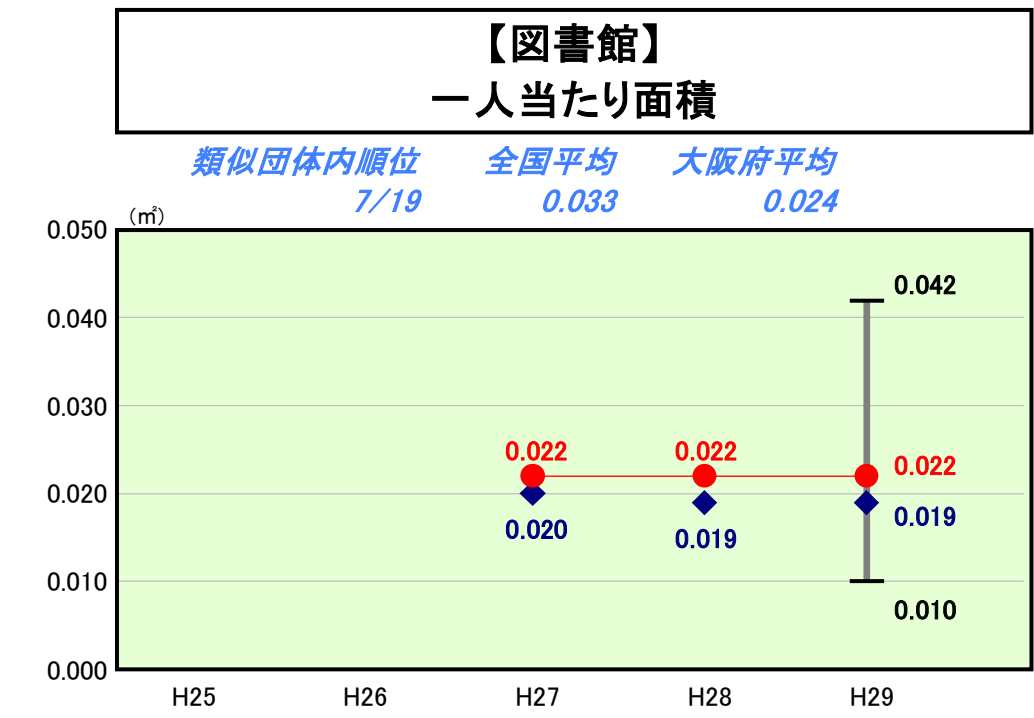
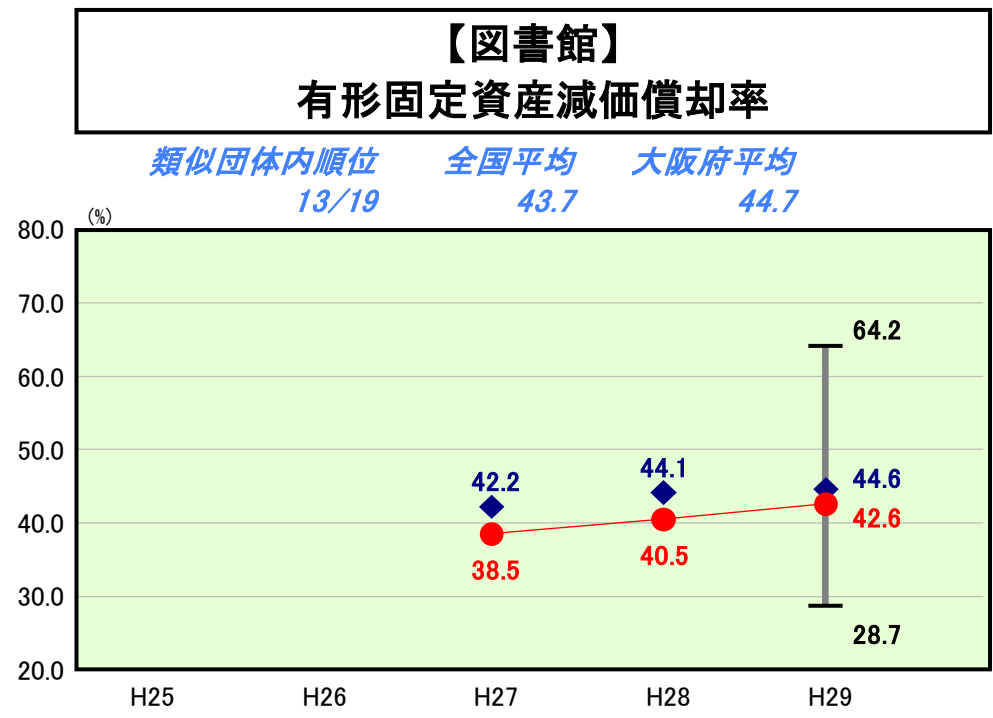
人	2,702,432	人	(H30.1.1現在)	実	質	赤	字	比	率	-	%			
うち日本人	2,570,850	人	(H30.1.1現在)	実	結	実	質	赤	字	比	率			
面積	225.21	km ²		実	公	債	費	比	率	5.7	%			
歳入総額	1,742,817,144	千円		将	来	負	担	比	率	65.2	%			
歳出総額	1,740,813,287	千円		市	町	村	類	型						
実質収支	419,812	千円		(	年	度	毎	)	H25	政令市	H26	政令市	H27	政令市
標準財政規模	848,686,770	千円							H28	政令市	H29	政令市		
地方債現在高	2,069,776,835	千円												



※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。

※ 住民基本台帳人口については、住民基本台帳関係年報の調査基準日変更に伴い、平成25年度以降、調査年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口を記載。

※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、平成29年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。



施設情報の分析欄

本市では、高度経済成長期を中心に多種多様な公共施設の整備を進め、膨大な量の施設を保有しているため、市設建築物については「資産流動化プロジェクトチーム」による総合的な有効活用、インフラ施設については長寿命化を基本とした効率的な維持管理を実施している。こうした取組みもあり、有形固定資産減価償却率は類似団体平均を下回っている。

なお、一般廃棄物処理施設については、老朽化が進み、供用年数が耐用年数を超える施設が約2割を占めており、有形固定資産減価償却率が高くなっているものと考えられるが、「ごみ焼却工場の整備・配置計画」(平成24年4月策定)に基づき老朽化したごみ焼却工場を順次更新していく。

今後も市設建築物およびインフラ施設については、平成27年度に策定した「大阪市公共施設マネジメント基本方針」に沿って、規模の最適化、予防保全による長寿命化、多様なコスト削減手法の導入に取り組む。